

令和元年度

事業報告書



社会福祉法人土佐厚生会

— 目 次 —

土佐厚生会	1
障害者支援施設 こくふ	6
短期入所事業所 こくふ	13
相談支援センター アルペジオ	14
就労継続支援 B 型事業所 ウィール社	16
就労継続支援 B 型 ワークセンターファースト	22
障害者支援施設 あき	26
短期入所事業所 あき	30
特別養護老人ホーム 八流荘	31
デイサービスセンター やながれ	33
ホームヘルプステーション やながれ	35
在宅介護支援センター やながれ	36
小規模多機能型居宅介護事業所 南風	38
障害者支援施設 とさ	41
就労継続支援 B 型事業所 カトレア	48
障害者福祉ホーム コーポラスこくふ	53
公益を目的とする事業	55

土佐厚生会

1 はじめに

土佐厚生会の会是である「愛情」「奉仕」「連帯」の精神を遵守し、人権の尊重とプライバシーの保護に努めるとともに、利用者様が地域社会の一員として社会、経済、文化活動等に参加をし、有する能力に応じた日常生活を営むための適切な支援に努めました。

各事業所内においては、安全で安心できる良質なサービスを継続的かつ安定的に提供できるよう、業務改善提案表彰制度に則った活気のある組織運営を進めました。

2 事業の総括

- (1) 役職員は、本会の基本理念とする「愛情」「奉仕」「連帯」の精神を旨とし、必要な知識と技術の習得など、実践を重ねながら切磋琢磨し、常に改善を進めていく組織文化の構築を目指しました。
- (2) 役職員は、法人の基本方針に則り、社会福祉事業の主たる担い手として利用者様に対し、継続的かつ適切な福祉サービスの提供に努めるため、家族様・行政機関その他福祉関係者との連携(報告・連絡・相談・確認)を密にし、きめ細やかな対応を図るなど利用者サービスの向上に努めました。
- (3) 役職員は、提供する福祉サービスの質の向上を図るため、全施設、事業所において自己評価を行い、その結果を公表し社会福祉事業活動の透明化に努めました。
- (4) 役職員は、個人の尊厳や社会的倫理を遵守し、社会福祉事業者に求められている自立性、公益性の確保に努めました。
- (5) 本会の運営する施設、事業所は、地域の福祉ニーズに応えるため、地域住民、行政機関その他福祉関係者との連携を密にし、積極的に情報収集を行うなど地域貢献を図るべく、地域福祉の向上に尽力しました。

3 研修会の総括

(1) 令和元年度研修会の総括

令和元年度は、スタッフの確保と定着を推進するべく「働きやすさと働きがい」が両立する職場づくりに向けて取り組みました。また、研修に参加したスタッフが得た学びは、ミーティングや職員会等で共有し、職場全体のレベルアップを図りました。

(2) 集合研修

研修名	対象者	実施日数	研修内容
先進企業視察研修	勤続3年以上	3日間	コミュニケーション能力の向上、人権尊重の精神、ホスピタリティなどを学ぶ

(3) 職場内研修

研修名	研修内容
介護技術研修	感染症、リスクマネジメント、事故対応等
ノーリフト研修	スタッフの腰痛予防やケアの質向上を目的にノーリフト推進委員が中核となり研修を実施
虐待防止研修	虐待防止委員会が中心になり、テーマに沿って研修を実施

(4) 階層別研修

研修名	対象者	実施日数等	研修内容
新規採用職員研修 (内部研修)	平成 31 年度 新規採用職員	4 週間 (4 月)	ア 法人概要、経営理念、社会福祉法人とは イ 就業規則、人事制度 ウ リスクマネジメント、コミュニケーション エ 障害者福祉サービス オ 高齢者福祉サービス カ 虐待防止、身体拘束、個人情報保護 キ 利用契約 ク 基本介護技術 (ア) 移乗介助を主とした実技 (イ) 介護現場での OJT ケ 就労支援事業所での OJT
高知県福祉介護合同入職式	平成 31 年度 新規採用職員 (新社会人)	1 日 (4 月)	福祉の仕事に対する誇りやモチベーション 向上、接遇技術
KQN 新規職員活力向上セミナー		1 日 (4 月)	自分らしい生き方・働き方を実現するための 秘訣の理解
福祉職場の新任職員研修		1 日 (6 月)	福祉の基本理念を踏まえた仕事のやりがい や心構え、組織の一員として成長するた めの基本的姿勢
高知県福祉・介護フォローアップ研修		1 日 (9 月)	仲間同士互いの成長や将来の目標を共有 し、今後の仕事に活かす
先輩職員研修	1 年以上 3 年未満	1 日 (7 月)	先輩としての働き方、後輩への関わり方の 基本姿勢について
中堅職員 ファーストステップ研修	3 年以上の非役職者	1 日 (6 月又は 10 月)	組織の中での自分の立ち位置を認識し、自 律的に行動していくためのスキルを学ぶ
中堅職員 ステップアップ研修	5 年以上の非役職者	1 日 (7 月又は 11 月)	後輩職員のやる気を引き出しながら、指導 育成、働きやすい職場づくりに貢献する
指導的職員研修	主任・係長など	2 日間 (10 月)	リーダーシップ、チームマネジメント、問 題解決、指導育成の基本的知識と実践
KQN 新規職員 人財化セミナー	概ね 3 年以内 30 歳未満	6 回 (6 月～1 月)	人が成長する上で土台となる考え方を学 び、仕事観を身につけ、自身の将来像を描 くきっかけを掴む
KQN 現場力強化 セミナー	30 歳以上 一般職～係長級	6 回 (8 月～1 月)	職場や自分の業務をより良くしていくた めには何が必要かということを考え、自発的 に行動していくための考え方を学び合う
人事考課研修	役職者等	3 回 (上期・下期)	人事考課制度の理解促進、部下の育成、面 接の手法
人事考課勉強会	役職者等	2 回 (上期・下期)	考課者同士の対話を通じて新制度の内容や 目的、考課基準の意味を浸透させる

(5) 専門職研修

研修名	実施日数	研修内容
就労支援部会	各専門職会で 決定の上実施	事業所毎の状況報告、新規事業検討、事例検討など
栄養士会		各施設の課題、委託業者の見直しなど
P T 会		職能要件書の検討など
相談員会		困難事例の検討、情報共有など
入所サビ管会		身体拘束の事例検討・事故報告の提出手順統一など

4 その他（事業の概要等）

(1) 本会の主たる活動

ア 理事会等の活動は以下のとおりでした。

活動名	実施日	実施場所	主たる審議内容
理 事 会	令和元年 6月8日	法 人 本 部	事業報告・決算、補正予算、評議員会開催、定款一部変更、評議員候補者推薦、施設建設に係る指名入札業者決定
	6月22日	法 人 本 部	理事長、業務執行理事選任
	9月2日	法 人 本 部	事業進捗状況、建設工事請負契約締結、諸規定一部変更、評議員会開催
	11月2日	法 人 本 部	施設建設に係る借入、評議員会開催
	12月14日	法 人 本 部	事業進捗状況、業務執行理事選任、施設建設に係る入札指名業者、基本財産処分承認申請、諸規定一部変更、評議員会開催
	令和2年1月8日	法 人 本 部	シャワー入浴装置導入、施設長任免
	3月21日	高知らばさんセンター	事業計画と予算、補正予算、建設工事請負契約締結、評議員会開催、諸規定一部変更
評 議 員 会	令和元年6月22日	法 人 本 部	事業報告及び決算、補正予算、社会福祉充実計画変更、定款一部変更、理事・監事選任
	9月14日	法 人 本 部	事業進捗状況、建設工事請負契約締結
	11月9日	法 人 本 部	理事選任
	12月21日	法 人 本 部	事業進捗状況、基本財産処分承認申請、諸規定一部変更
	令和2年3月28日	高知らばさんセンター	事業計画と予算、補正予算、建設工事請負契約締結、理事選任、社会福祉充実計画変更
監事による 監査	令和元年5月16日 ～5月18日	—	書類監査、業務監査
	5月21日	法 人 本 部	経営及び会計事務、決算書確認監査

イ 各種会の活動は、以下のとおりでした。

活動名	開催年月日	実施場所	主たる活動内容
業務執行理事会	毎月1回	法 人 本 部	重要案件の調査・審議
褒賞・懲戒委員会	令和2年3月21日	高知らばさんセンター	表彰者の選考、永年勤続表彰制度の決定

(2) 情報公開について

本会が設置経営する施設及び事業所の状況、その他、法人の透明性を図るため、次のとおり情報の公開を行いました。

事 項	場 所
法人経営状況の公開、閲覧 現況報告、財務諸表	こくふ、やながれ、とさの各福祉ゾーンで定款に定める情報開示を行いました。
	財務諸表等電子開示システム
	障害福祉サービス等情報公表、法人ホームページ
	日本財団公益事業 web サイト canpan fields ホームページ
財務諸表	福祉新聞、機関紙

(3) 土佐厚生会高知駅前オフィスの設置と小規模作業所ファーモニーの運営

平成 22 年 8 月 1 日、財団法人 JKA（オートレース公益資金）による補助金を受け、高知市新本町 2 丁目（高知駅より徒歩 3 分、高知赤十字病院前）において、小規模作業所ファーモニーを開設、翌 9 月から 6 名の障がい者の方々の就労訓練を実施し、知的障がい者 1 名、精神障がい者 3 名の方々を一般就労へと導きました。

しかしながら、令和元年 5 月 6 日に高知赤十字病院が高知市秦南町 1（イオンモール高知の東隣）に新築移転した後は、近隣地域全体の店舗集客が次第に途絶え、継続した収益の見込みが立たないことから移転や廃業者が増加しました。加えて、令和 2 年 1 月 15 日付のサンシャインリオ店の閉店決定を受けて、小規模作業所ファーモニーも、令和元年 12 月 27 日をもって店内での飲食提供を終了しました。以降は、法人内部の昼食弁当等の受注と、店舗内の整理清掃を進め、令和 2 年 3 月 31 日、小規模作業所ファーモニーと土佐厚生会駅前オフィスは、開設 10 年目で残念ながら事業の休止としました。なお、関係スタッフ全員は、土佐厚生会のこくふ福祉の村の事業所において継続雇用としました。

(4) やながれ福祉施設センター 新築事業

令和元年度については、やながれ福祉センター各事業所の大規模修繕に係る調査研究及びプロジェクトマネジメントを継続するため、平成 26 年 8 月 16 日発足のプロジェクトチームを年度当初に改選、新たなメンバーで事業を進めました。その事業の一つである（仮称）障害者支援施設ステージ桜ヶ丘及び小規模多機能型居宅介護事業所南風新築工事については、下表のとおり事業を実施しました。当初、令和元年 2 月建築工事着工、同年 10 月完成予定でしたが、一昨年のお水害の影響並びに実施設計の遅れなどから、令和 3 年 1 月 31 日に完成予定です。

また、残る介護保険対象施設建替えに係る調査研修が進んでおらず、令和 2 年度に持ち越しとなりました。

年 月 日	項 目	備 考
令和元年 7 月 23 日	高知県施設整備費補助金申請	
8 月 22 日	造成工事入札、業者決定	株式会社栗田商店
8 月 29 日	造成工事請負契約締結 契約金額 121,000,000 円	〃
9 月 3 日	高知県施設整備費補助金交付決定	
11 月 2 日	建設資金借入業者理事会承認	四国銀行株式会社

年 月 日	項 目	備 考
11 月 19 日	安芸市施設整備費補助金申請	
12 月 23 日	近隣構築物影響調査完了	令和元年 11 月 5 日～12 月 23 日 株式会社日之出設計システム
令和 2 年 1 月 7 日	安芸市施設整備費補助金交付決定	
2 月 22 日	高知県へ実施設計書提出	株式会社日比野設計
3 月 11 日	造成工事完了、引き渡し	株式会社栗田商店
3 月 16 日	建築工事入札、業者決定	株式会社岸之上工務店
〃	建築工事請負契約締結 契約金額 904,200,000 円	工期：令和 2 年 3 月 30 日～令和 3 年 1 月 31 日
4 月 3 日	建築確認検査済証取得	株式会社日比野設計

障害者支援施設 こくふ

1 事業の総括

「思いやる気持ちでつなぐ心の和」をスローガンとし、スタッフは欠員状況であることから全スタッフがベクトルを合わせ、利用者様の安全・安心を第一に考えていくことをモットーとして一つひとつの支援を丁寧に振り返り、支援のあり方や根拠を再認していくことに努めました。

2 事業報告

事業計画(1)

利用者様の確保に努め、施設経営の安定を図ります。【数値目標：稼働率 95%、76 名以上】

ア 相談支援センターアルペジオや各関係機関と密な連携を図り、積極的な営業活動等を行い、新規利用者様の確保に努めます。

イ 短期入所の稼働率を向上させるため、三障害の受け入れ態勢を整備し、緊急ショートや体験ショートの受け入れも積極的に行います。

ウ 新たに広報ツール(パンフレットやチラシ等)を作成し、関係機関に配布し、新規利用者様の獲得を目指します。

実稼働率の目標は 95%以上としておりましたが年間の平均稼働率は 82.6%でした。1 名の利用者様は地域移行をされたものの、他 6 名の利用者様はレベルダウンにより入院、そして退所。また、入退院が繰り返される利用者様が多く稼働率は目標達成に至りませんでした。

ア 重度の利用相談が多く、スタッフの状況や国府寮診療所の休診に伴う体制づくりで施設入所の新規利用者の受け入れは困難でした。

イ 三障害の受け入れ態勢整備はできませんでした。短期入所の新規利用者の受け入れについては積極的に行い、安全や衛生に配慮した環境設定を行いました。利用には至りませんでした。9 月 3 日付で短期入所の受け入れ対象に「障害児」を追加しました。

ウ 広報誌は未作成で発行することができず、新たなパンフレットも検討中であり完成には至りませんでした。

事業計画(2)

スタッフの確保に努め、働きやすい職場環境づくりを行います。

ア 就職フェアや転職イベント等に積極的に参加し、介護、看護スタッフの確保に努めます。

イ 施設近隣地域に求人募集のダイレクトメールを発送し、パート、時短スタッフの確保を図ります。

ウ 日頃よりコミュニケーションを密に取り、風通しの良い職場環境を作ります。

エ 施設内外の研修を通してスタッフのスキルアップを図り、サービスの向上に努めます。

ア 求人イベントには積極的に参加し、実習生(障害雇用を含む)の受け入れや 31 年度初となりましたがインターン学生の受け入れや就活視察研修に参画しました。

イ こくふ村祭りのチラシにスタッフ募集を掲載してもらいました。

ウ コミュニケーションを図ることの重要性をスタッフが実感できるよう、部署長や指導者側が指導方法について悩み、考えながら関わりました。

エ 20 歳代のスタッフを対象とした「こくふ塾」を開催(9 名・5 回/年)し、対人援助者としての視点や障害者の自立支援機器となるスイッチ製造体験、機器を使用する事例等、

日々の業務につながる学びや個人の生き方、時間の使い方を考える内容としました。9名のスタッフが一同に参加するために、先輩スタッフや他部署からの協力があること等研修のねらいは各々に獲得されたとものと期待しています。

(7) 施設内研修及び勉強会

表 1

事項	回数及び実施日	参加者
虐待防止研修	2回	67人/64人
リスクマネジメント	1回	13人
ノーリフト推進委員勉強会	5回	8人/8人/10人/2人/2人
こくふ塾	5回	8人/9人/9人/9人/8人

(イ) こくふ塾 講師とタイトル

表 1-2

月 日	内 容	講 師
10月25日(金)	知ることからの始まり	上田真弓
11月22日(金)	仕事のやりがいと楽しさ・製作編	坊岡正之氏(NPO 結人の総理事長)
12月27日(金)	仕事のやりがいと楽しさ・事例編	坊岡正之氏(NPO 結人の総理事長)
1月24日(金)	伝わる伝え方	新納朋代氏(KUTV 編成業務担当部長)
2月28日(金)	時間の有効活用	中西洋明氏(ソニー生命ライフプランナー)

(ウ) 施設外研修

表 2

事 項	実施年月日	場 所	人 員
土佐厚生会東京視察研修	R1. 4. 16~18	東京都	3人
中四国身障施設協議会施設長総会	R1. 5. 13~14	鳥取県	1人
高知県身障者児協会総会	R1. 4. 19	高知市	1人
中堅職員ファーストステップ研修	R1. 6. 6	高知市	1人
高知県食と栄養の会 平成30年度総会	R1. 6. 7	高知市	1人
高知県施設福祉士会総会	R1. 6. 27	高知市	2人
全国施設福祉士セミナー	R1. 7. 4~5	福岡県	1人
高知家ノーリフティングリーダー育成研修	R1. 7. 6	高知市	1人
高知家ノーリフティングリーダーマイスター育成研修	R1. 7. 8	高知市	1人
中堅職員ステップアップ研修	R1. 7. 11	高知市	1人
福祉職場の先輩職員研修	R1. 7. 26	高知市	1人
全国身体障害者施設協会研究大会北海道大会	R1. 8. 27~28	札幌市	1人
福祉サービス苦情解決セミナー	R1. 9. 9	高知市	3人
食と栄養の会第2回研修会	R1. 9. 11	高知市	1人
中四国ブロック施設福祉士セミナー	R1. 10. 3~4	高松市	3人
中四国身障施設協議会施設職員研修大会	R1. 10. 17~18	徳島市	3人
南国市社会福祉法人による公益的な取り組み連絡会(岡山県被災地視察)	R1. 10. 21	岡山県	2人
指導的職員研修	R1. 10. 28	高知市	2人
全国身体障害者施設協会職員スキルアップ研修	R1. 12. 3~4	神奈川県	1人
第2回高知家ノーリフティングフォーラム 介護ロボット高知フォーラム	R2. 2. 1~2. 2	高知市	1人
サービス管理責任者等更新研修	R2. 2. 6	高知市	1人

事 項	実施年月日	場所	人員
歯科医師会主催 食の支援	R2. 2. 8	こくふ	6人
サービス管理責任者等更新研修	R2. 2. 20	高知市	2人
中四国身体障害者施設協会施設長総会	R2. 2. 20～21	山口市	1人

事業計画(3)

業務改革を推進し、利用者満足、職員満足の向上に努めます。

ア ノーリフティングケアを活用し、利用者様、スタッフ双方に負担の掛からない適切な支援を行い、働きやすくやりがいのある職場環境の構築、改善を行います。

イ 利用者様の特性やニーズを把握し、特色のある日中活動の提供を行います。

ウ 現状に満足することなく、積極的に業務の改善を図り、良質なサービスの提供を目指します。

エ 地域の方々と合同防災訓練を開催するなどし、地域との連携の強化を図ります。

ア ノーリフト委員会と衛生委員会を軸とし、リフト操作・手袋・シートの使用方法についての研修を実施し、スタッフの腰痛や業務上のメンタル面や意見を集約できるアンケート調査を2回実施し、その回答を掲示しました。

イ スタッフが少ないこともあり、これまでより外出が困難となりました。インフルエンザ予防のためのマスク着用、面会禁止が11月から始まり、2月からは新型コロナウイルス感染対策を行うために外出制限が始まり、利用者様のストレス解消に配慮しました。

ウ 業務改善意識を持ち業務に臨んでいます。衛生委員会の業務改善提案数は減少しました。

エ 合同訓練を開催し、南国市社会福祉協議会が事務局となる「しゃこう連」事業に参加、倉敷市の被災地区への視察に出席しました。

(7) 総合的な防災訓練と避難訓練の実施状況

表3-1

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	回数計
避難誘導訓練		1	1		1	1	1					1	6
消火訓練		1										1	2
通報訓練		1						1				1	3
地震訓練			1		1	1	1						4
図上訓練		1					1					1	3
夜間訓練								1					1

(4) 「こくふ地区施設運営委員会」の実施状況

施設に関する苦情や相談に対して、迅速かつ適正に対応するために目安箱による苦情受付のほか、毎月1回外部の第三者委員により利用者様からの意見聴衆の機会を設けています。令和元年度の相談受付は年間11回、定例会は年間2回実施しました。(新型コロナウイルス感染対策のため、3月は相談及び定例会を中止)

表3-2

	施設内の問題	その他の問題	計
こくふの苦情等の申出窓口	0	3	3
こくふ地区施設運営委員会	0	9	9
高知県こまりと相談所	0	0	0

(ウ) 日中活動、文化的・社会的活動の実施状況

日中活動メニュー

表3-3

	男	女	計	指導者の区分	開催状況
俳句	0	3	3	スタッフ	月1回
生花	2	8	10	ボランティア	月1回
リズム音楽	8	8	16	スタッフ	月2回
麻雀	4	0	4	スタッフ	月2回
ハンドメイド	1	8	9	スタッフ	月2回
カラオケ	7	10	17	スタッフ	月2回
レクリエーション	11	12	23	スタッフ	月2回
視力トレーニング	13	13	26	外部業者様	月1回
ボッチャ	8	4	12	スタッフ	月1回
園芸	4	1	5	スタッフ	月2回
レッツあーと	6	6	12	スタッフ	月2回
散歩・外出	15	11	26	スタッフ	月2回
リラクゼーション	1	7	8	スタッフ	月2回
映画鑑賞	17	5	22	スタッフ	月1回
ミニ喫茶	希望者	希望者		スタッフ	月1回
料理教室	希望者	希望者		スタッフ	月1回

(単位：人) (令和2年3月31日現在)

(エ) 年間行事等

表3-4

行事名	実施日	実施場所	実施内容・参加者
外注の日	2か月に1回実施	モデル住宅 及び藤の間	都人寿司店からの取り寄せ 1回8名程度
アニマルセラピー	年間3回実施	施設内	ボランティアの協力を得て犬や猫と 直接触れ合っていていただく 20名程度
友近 やっくん	令和元年8月16日	食堂ホール	ギター演奏
秋の法要	令和元年9月9日	施設内 银杏の間	国分寺住職による法要 15名程度
ミニ運動会	令和元年10月30日	食堂ホール	利用者様・家族様・スタッフ共 に心身リフレッシュを図る
クリスマス忘年会	令和元年12月18日	食堂ホール	地域関係者招待しコミュニケーションを図る
節分豆まき	令和2年2月3日	施設内中庭	年男年女中心に豆まきをし、厄払いをする
春の法要	令和2年3月19日	施設内 银杏の間	国分寺住職による法要 コロナのためスタッフのみ

(令和2年3月31日現在)

(オ) 地域住民との交流

表3-5

交流活動	実施日	実施場所	ボランティア団体など
清掃ボランティア	平成31年4月29日	施設内	天理教比江分教会様
こくふ福祉の村まつり	令和元年7月13日	施設内	地域の方、南国市地区社協様他
国府地区自主防災訓練に参加	令和元年10月13日	国府小学校	地域住民・国府地区消防団様
熊野神社大祭	令和元年10月30日	施設内	熊野神社氏子の皆様
プランター贈呈	令和元年12月24日	施設内	北陵中学校生徒会様
人権の花	令和元年12月10日	施設内	南国市人権擁護委員、国分小学校
施設見学	随時	施設全般	入所希望者、介護関係求職者等

3 利用者様の状況及び医療体制

(1) 利用者様の障害別人員・性別・年齢別

表4-1

疾病・ 障害分類	脳性麻痺	損 傷			脊髄マヒ	脊髄小脳変性症	脳血管障害後遺症	頭部外傷後遺症	進行性筋萎縮症	その他	合計	左 の う ち			
		頸椎損傷	胸腰髄損傷	脊髄損傷								精神障害併発者	視覚障害保持者	聴覚障害保持者	
区 分															
性別	男	4	0	0	2	1	0	22	6	1	7	43	5	2	0
	女	12	0	0	0	1	0	5	0	0	4	22	2	0	0
	計	16	0	0	2	2	0	27	6	1	11	65	7	2	0
手帳等種別	1 級	8	0	0	1	2	0	19	4	1	6	41	4	2	0
	2 級	8	0	0	0	0	0	5	2	0	3	18	2	0	0
	その他	0	0	0	1	0	0	3	0	0	2	6	1	0	0
	計	16	0	0	2	2	0	27	6	1	11	65	7	2	0
年 齢 別	20歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	20～29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	30～39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	40～49	5	0	0	1	1	0	0	0	0	1	8	0	0	0
	50～59	4	0	0	1	0	0	6	2	0	1	14	4	1	0
	60～64	4	0	0	0	0	0	6	1	1	3	15	2	0	0
	65～69	2	0	0	0	0	0	5	1	0	4	12	1	1	0
	70歳以上	1	0	0	0	1	0	10	2	0	2	16	0	0	0
計	16	0	0	2	2	0	27	6	1	11	65	7	2	0	

(単位：人) (令和2年3月31日現在)

(2) 利用者の年齢の状況

表4-2

	最年少者	最年長者	平均年齢
男	43歳	83歳	65歳
女	46歳	79歳	52歳
全体	43歳	83歳	62歳

(令和2年3月31日現在)

(3) 看護師による処置の内容

表4-3

内 容	人 数
経管栄養 (鼻腔)	2人
胃瘻栄養	2人
バルンカテーテル留置	8人
吸入・吸引	5人(適宜)
摘便・ガス抜き	15人(適宜)
慢性創傷・皮膚科処置	30人(適宜)

(令和2年3月31日現在)

(4) 国府寮診療所の休診及び医療体制

11月1日から休診することになりました。診療所のDr.が退職となり、53名の利用者様のかかりつけ医を確定、服薬の処方途切れぬよう家族様の意向を確認しつつ、スタッフの通院同行が頻回となりました。また、利用者様の受診の必要がない急変に伴う処方、看護師の処置(表4-3)が不可能となってしまったため、医療処置の外来通院が増えました。

そして、夜間や緊急時に病院の受け入れ拒否が増えたため、二ヶ所の協力病院には継続のお願いに伺い、以前からの嘱託医の勤務先にも協力病院として契約いただきました。嘱託医の1名につきましては、近くのクリニックのDr.と令和2年度からの契約となる予定です。

こくふゾーンの利用者様の健康診断、利用者様とスタッフのインフルエンザ予防接種等を今後どのようにしていくのか、検討課題となりました。

10月31日付で嘱託医兼産業医の契約が終了となったため、11月1日からは新たな産業医との契約になり、毎月第4金曜日の午後の巡回及び衛生委員会に出席、スタッフの健康診断や医療相談体制は整いました。

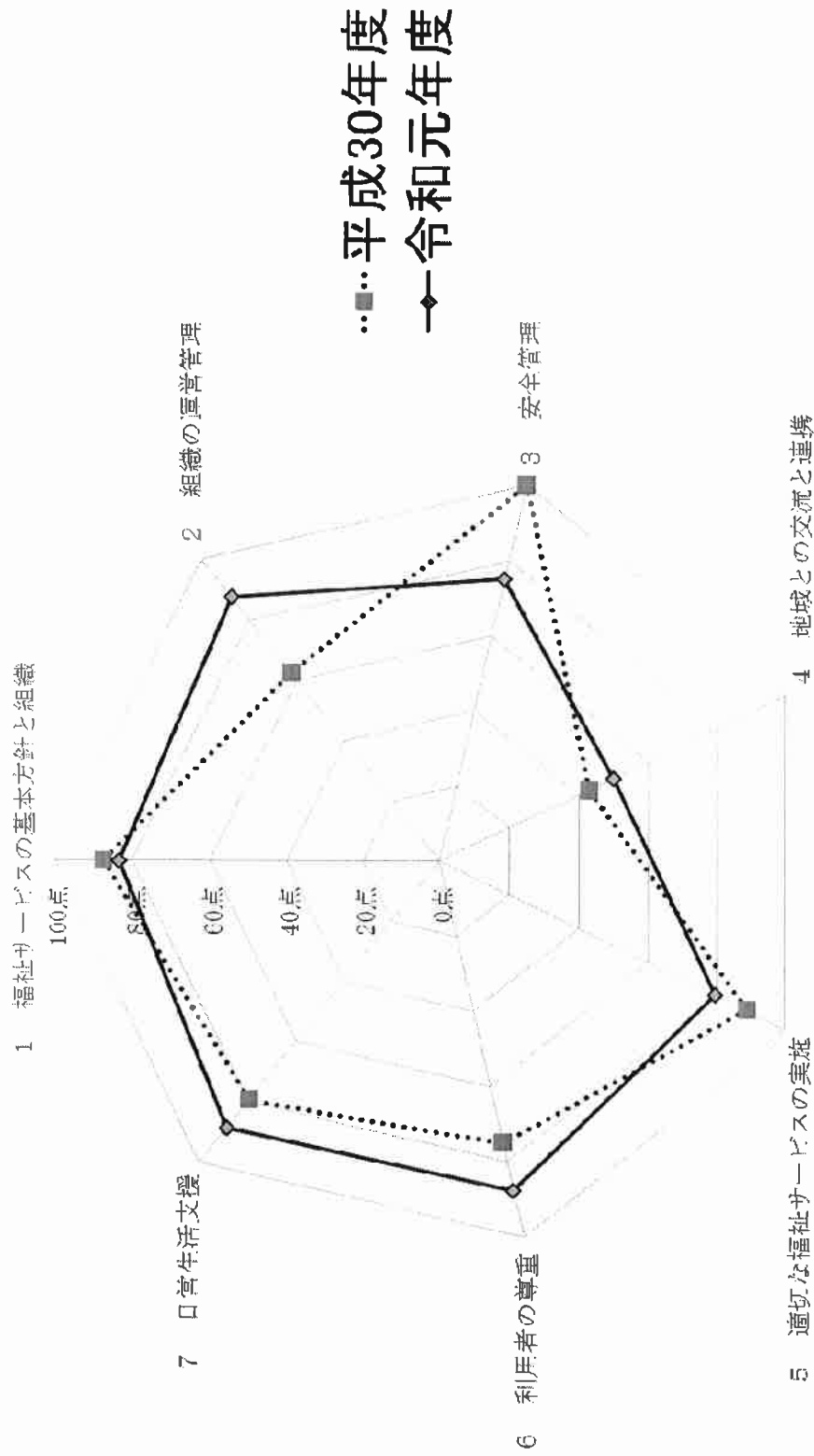
(5) 歯科医師研修会開催に参加

この研修会は、歯科医は歯を診る、つくる、治療するだけではなく、患者、障害者、高齢者等の食支援の視点で診ることができる歯科医師が必要である!!という島田先生(四万十市島田歯科医)が担当となられ、啓発ならびに人材育成をされているものです。

日 時	令和2年2月8日(土) 10:00-15:00
研修目的	摂食嚥下障害のなかでも特に脳卒中慢性期、認知症、神経筋疾患など難病の方へも食支援ができる歯科医の人材育成事業
研修講師	大阪大学歯学部附属病院顎口腔機能治療部 准教授
参加者	高知県内の研修医(開業医4名) 研修担当 島田 力 先生 利用者様2名 当施設スタッフ(看護師1名、管理栄養士1名、介護2名、理学療法士1名、施設長)
内 容	10:00- 講義 11:30- 利用者様2名の食事風景の観察 12:30- 昼食休憩 13:30-15:00 講義 15:10 終了

※事前に嚥下障害が心配な利用者様及び家族様に了解を得て、終了後には診断結果や今後の当施設での取り組み等をご報告いたしました。

評価細目の自己評価結果 (障害者支援施設こくふ)



短期入所事業所 こくふ

1 事業の総括

令和元年の新規利用としましては、二人部屋を友人同士での楽しみながらの利用や台風時の避難先としての利用がありました。同年9月3日からは、受け入れ対象に「障害児」を追加しましたが、広報不足により利用には至りませんでした。

在宅障害者支援の事業として短期入所に対するニーズは多く、また、緊急時の受け入れを可能とするためには、一人当たり2～3ヶ所の施設に日常利用をしておくことを勧められている状況です。近隣である高知市においては、短期入所先が不足していることが課題とされています。そのようなことから鑑みると、当施設への利用者数としては現在は少ないと思われまので、広報活動をしていきながら可能な範囲でお受けしていきたいと考えます。

2 事業報告

事業計画(1)

イ 短期入所の稼働率を向上させるため、三障害の受け入れ態勢を整備し、緊急ショートや体験ショートの受け入れも積極的に行います。

(施設入所の事業計画に記載)

イ-(ア) 三障害の受け入れ態勢整備に向けては実行できませんでした。

- (イ) 短期入所の新規利用者様は4名、受け入れについては積極的に行い安全や衛生に配慮した環境設定を行いました。

- (ウ) 利用には至りませんでした。9月3日付で短期入所の受け入れ対象に「障害児」を追加しました。

- (エ) 利用者様の状況

事業所における利用者様の状況

市町村名	障害程度区分	利用延日数
東広島市	区分5	43日
高知市	区分6	25日
高知市	区分5	16日
安芸市	区分5	86日
南国市	区分6	9日
香南市	区分6	20日
香南市	区分5	14日
本山町	区分5	5日
計		218日

(令和2年3月31日現在)

相談支援センター アルペジオ

1 事業の総括

一人当たりの特定相談支援事業者が受け持つ件数としては、当事業所は大変過剰な件数となっていますが、サービス利用等利用計画やモニタリングは計画的に作成・提出し滞るようなことはありませんでした。また、他の特定相談支援事業所から引継ぎした利用者様の情報収集や支援につきましては、後追いとはなりましたが、利用者様や家族様との関係構築等に努めました。

2 事業報告

事業計画

- (1) 法人内施設を利用されている利用者様を中心に、サービス等利用計画の作成やモニタリングの実施に努めます。また、必要に応じて適宜改善を行います。
- (2) 他法人の相談支援事業所とのつながりを大切にし、研修や事例検討会に積極的に参加し、相談支援専門員としての専門性や知識の向上に努めます。
- (3) 支援機関や各事業所とのスムーズな連携を図り、関係機関に支持される事業所を目指します。
- (4) 計画相談は地域全体のサービスを充実させる契機となり、不足するサービス、資源を支援機関とともに検討、提案します。
- (5) 利用者様の意思決定を尊重し、権利擁護を常に考え、相談支援専門員としての役割を果たします。

- (1) 計画書やモニタリングの作成につきましては、行政機関からの指摘もなく順調に行えました。
- (2) 事例検討会につきましては、充分にはできませんでした。
- (3) 家族様と事業所の間における支援のあり方に戸惑いがあり、充分にはできませんでした。
- (4) ソーシャルアクションまでには至りませんでした。
- (5) 利用者様の事業所側の動きに悩むことも多く、関わり方の混乱から感情移入が課題となることがありました。

(6) サービス等利用計画作成状況

単位：件

表 1

月 施設名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
こくふ	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3	0	7
あき	1	3	0	0	0	0	0	2	0	0	1	1	8
とさ	0	0	1	0	0	3	1	2	1	2	0	2	12
ウィール社	0	1	3	1	2	1	2	0	0	0	2	0	12
カトレア	7	0	1	0	1	2	0	0	1	0	2	1	15
在宅	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
合計	10	4	5	1	3	7	3	4	3	3	8	4	55

(令和2年3月31日現在)

(7) モニタリングの状況

単位：件

表 2

月 施設名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
こくふ	10	7	13	20	7	2	6	4	4	6	6	3	88
あき	3	4	1	3	2	2	1	5	0	0	1	1	23
とさ	2	4	4	5	9	6	1	4	2	2	3	5	47
ウィール社	3	1	2	2	4	2	2	3	5	5	1	1	31
カトレア	0	3	3	1	2	5	0	2	4	0	2	0	22
在宅	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	4
合計	18	19	24	31	24	18	10	18	16	13	13	11	215

(令和2年3月31日現在)

(8) 施設外研修への参加状況

表 3

事 項	実施年月日	場所	人員
令和元年度高知県相談支援従事者現任研修	R1. 7. 17~7. 19	高知市	1名
社会福祉法人等が経営する社会福祉施設・事業所職員向け合宿研修	R1. 9. 2~9. 6	東京都	1名
高知県相談支援従事者「初任者」研修	R1. 10. 30~10. 31	高知市	1名
依存症相談支援基礎研修	R1. 11. 8	高知市	1名
高知県社会福祉大会	R1. 11. 20	高知市	1名
全国相談支援ネットワーク研修会	R1. 11. 29~11. 30	東京都	1名
高次脳機能障害リハビリテーション講習会	R1. 12. 8	高知市	1名
依存症相談支援フォローアップ研修	R2. 1. 21	高知市	1名
高知県サビ管等更新研修	R2. 2. 20	高知市	1名
高知県地域移行地域定着支援関係者研修	R2. 2. 22	高知市	1名

(令和2年3月31日現在)

就労継続支援 B 型事業所 ウィール社

1 事業の総括

土佐厚生会の会是を遵守し、「思いやる気持ちでつなぐ心の和」をスローガンに、利用者様や家族様、スタッフ間の信頼関係の構築に努め、利用者様の一番良い「働き方」を提供し、個人に寄り添った支援を行いました。

2 事業報告

事業計画(1)

利用者様のニーズや課題を把握し、個別支援計画に基づいた自立生活への支援を行います。

個別支援計画、モニタリングは適切に行われており、スタッフ全員で課題や支援方法等を周知徹底しました。一般就労希望の利用者様 1 名が南国市内の A 型事業所に移行されました。

事業計画(2)

利用者様の自治会や家庭での役割を遂行できるよう社会生活力を高めるよう支援します。

ウィール社の自治会役員の役割遂行ができるよう、状況を把握し、アドバイスや支援を行いました。また、家庭での役割は聞き取りを行い、行政や相談支援センターと連携し対応しました。

事業計画(3)

ア イベントやクラブ活動への参加を積極的に行い、利用者満足度を高めます。

イ 地域との交流機会を増やし、地域住民としての役割を果たします。

秋の外出は、グループ毎にカラオケ、買い物などに分かれての開催を予定しておりましたが、利用者様からの要望に応え、全員でレオマワールドに外出しました。3月に予定していました花見の開催は、新型コロナウイルスの影響で中止としました。

ア ウィール社の年間実施行事は以下のとおりです。

時 期	行 事	実施場所
平成 31 年 4 月 5 日	春の外出 花見	城西公園
令和元年 7 月 13 日	こくふ村祭り	障害者支援施設こくふ
9 月 19 日	秋の法要	ウィール社
10 月 11 日	秋の外出	レオマワールド
11 月 23 日	障害者ボッチャ大会	春野体育館
12 月 26 日	クリスマス忘年会	ウィール社食堂
令和 2 年 1 月 18 日	第 22 回なんこくボランティアデー	南国市スポーツセンター
2 月 23 日	釣りクラブ	加領郷漁港
3 月 19 日	春の法要	ウィール社

イ 地域交流の実績は以下のとおりです。

実施年月日	行事内容	実施場所
令和元年5月19日	潮見台睦会	龍馬歴史資料館
5月25日	地域食堂（きぼうのれん）	土佐希望の家
10月30日	熊野神社秋の大祭	熊野神社周辺
12月9日	久礼田小学校5年生27名体験実習	ウィール社
令和2年1月26日	地域食堂（きぼうのれん）	土佐清風園

事業計画(4)

利用契約者数26名、稼働率110%以上を目標とします。

令和元年度の利用契約者数は24.7名で目標の26名には到達できませんでした。新規契約者1名、退所者は3名で、それぞれA型事業所への移行、長期入院、自己都合のためでした。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和元年度	利用契約者数	25	25	26	26	26	26	25	25	23	23	23	23	24.7
	開所日数	21	22	21	23	19	21	22	21	21	21	20	22	21.2
	出勤のべ人数	483	502	495	546	434	475	491	450	432	437	422	463	469.2
	1日平均	23.0	22.8	23.6	23.7	22.8	22.6	22.3	21.4	20.6	20.8	21.1	21.0	22.2
	稼働率	115.0%	114.1%	117.9%	118.7%	114.2%	113.1%	111.6%	107.1%	102.9%	104.0%	105.5%	105.2%	110.8%
30年度	利用契約者数	25	26	26	26	26	24	24	24	24	23	23	24	24.0
	1日平均	23.2	23.9	24.1	23.1	24.2	23.6	24.0	22.8	22.6	22.7	22.5	22.8	23.3
	稼働率	116.0%	119.5%	120.7%	115.7%	120.8%	117.8%	120.2%	114.0%	112.8%	113.3%	112.6%	113.9%	116.5%

事業計画(5)

スタッフ1人当たり10件以上の業務改善提案を提出し、マニュアルの整備を図ります。

業務改善提案は全体で57件の提出があり、1人当たり11.4件でした。改善内容は受託作業や精米作業のマニュアル、自助具が多く含まれています。また、10月に高松市で開催された日本福祉施設士会中国四国ブロックブロックセミナーでこの改善提案制度や改善内容をスタッフ2名が発表し、奨励賞をいただきました。

事業計画(6)

就労支援活動年間売上¥23,320,000、利用者工賃¥23,000/月を目標とします。

ア 編集・印刷

営業と連携し、新規商品開発を行い、売上目標¥15,000,000とします。

イ 受託作業

安定した作業の確保と、利用者様のスキルアップを図り、売上目標¥2,320,000を達成します。

ウ 精米作業

仕入コストの削減を図り、売上目標を¥6,000,000とします。

エ 営業活動

価格の見直しを行い、収益率の向上を図ります。

	作業名	平成 30 年度	令和元年度	目標
印刷部門	—	16,182,789	15,585,280	¥15,000,000
精米部門	—	6,037,107	5,964,755	¥6,000,000
受託作業	—	2,325,173	2,313,630	¥2,320,000
内訳	浜幸	300,744	291,563	(300,000)
	ティーバッグ	443,436	377,915	(400,000)
	ミニパック	644,251	288,190	(600,000)
	ティッシュ	153,978	143,713	(150,000)
	洗糖袋詰	67,762	84,371	(60,000)
	いりこ	594,846	591,757	(600,000)
	南国ミロク	—	338,782	—
	その他	120,156	77,396	(222,000)
合計金額		24,545,069	23,914,370	¥23,320,000
平均工賃		¥22,880	¥23,948	¥23,000

ア 受託作業部門では、南国ミロク様との取引を開始し、衛生用品等の袋詰め作業の減少分をカバーし、前年度並みの売上を確保しました。印刷、精米部門は前年度比 98%と減少しましたが、全体では対予算 101%の売上でした。

イ 利用者様の平均工賃は前年度より 4.7%アップの¥23,948 でした。

3 その他

(1) 利用者様の防災意識の向上と、とっさの対応力UPに向け、以下のとおり定期的に防災訓練を実施しました。

実施日	訓練内容	参加者
令和元年 5 月 29 日	火災避難、消火訓練	利用者様 24 名、スタッフ 6 名
6 月 27 日	水害、地震、図上訓練 発電機操作確認	利用者様 22 名、スタッフ 6 名
10 月 30 日	合同地震訓練	利用者様 24 名、スタッフ 6 名
令和 2 年 2 月 26 日	水害、地震、図上訓練	利用者様 20 名、スタッフ 6 名
3 月 30 日	火災訓練	利用者様 22 名、スタッフ 6 名

(2) 今後の利用契約につなげるよう積極的に特別支援学校の実習生や施設見学の受け入れに努めました。

ア 特別支援学校実習生受け入れ状況

実習受け入れ期間	学校名	学年	性別
令和元年 9 月 11 日～13 日	光の村養護学校高等部専攻科	2 年生	男子 1 名
11 月 1 日	光の村養護学校高等部専攻科	2 年生	男子 1 名
11 月 5 日～15 日	県立山田特別支援学校	3 年生	男子 1 名
12 月 17 日～19 日	県立江ノ口特別支援学校	2 年生	男子 1 名

イ 施設見学受け入れ状況

見学日	見学者	来所者数
令和元年 8 月 20 日	土佐病院相談支援室	3 名
9 月 13 日	室戸市（本人と母親）	2 名
11 月 19 日	南国病院精神科作業療法室	3 名
3 月 17 日	高知ハビリテーリングセンター相談支援専門員	3 名

(3) 苦情受付 受付件数 0 件

(4) スタッフの配置状況

- ア 所長 1 名（兼務）
- イ サービス管理責任者 2 名
- ウ 職業指導員 4 名（内 1 名は生活支援員兼務）
- エ 送迎運転手 2 名

4 月より 1 名の嘱託職業指導員を採用し、印刷業務に従事しています。配達等の業務をしていたパート職業指導員が自己都合により 12 月に退職しました。5 月に送迎運転手が自己都合により退職しましたが、7 月に補充しました。

(5) 施設外研修

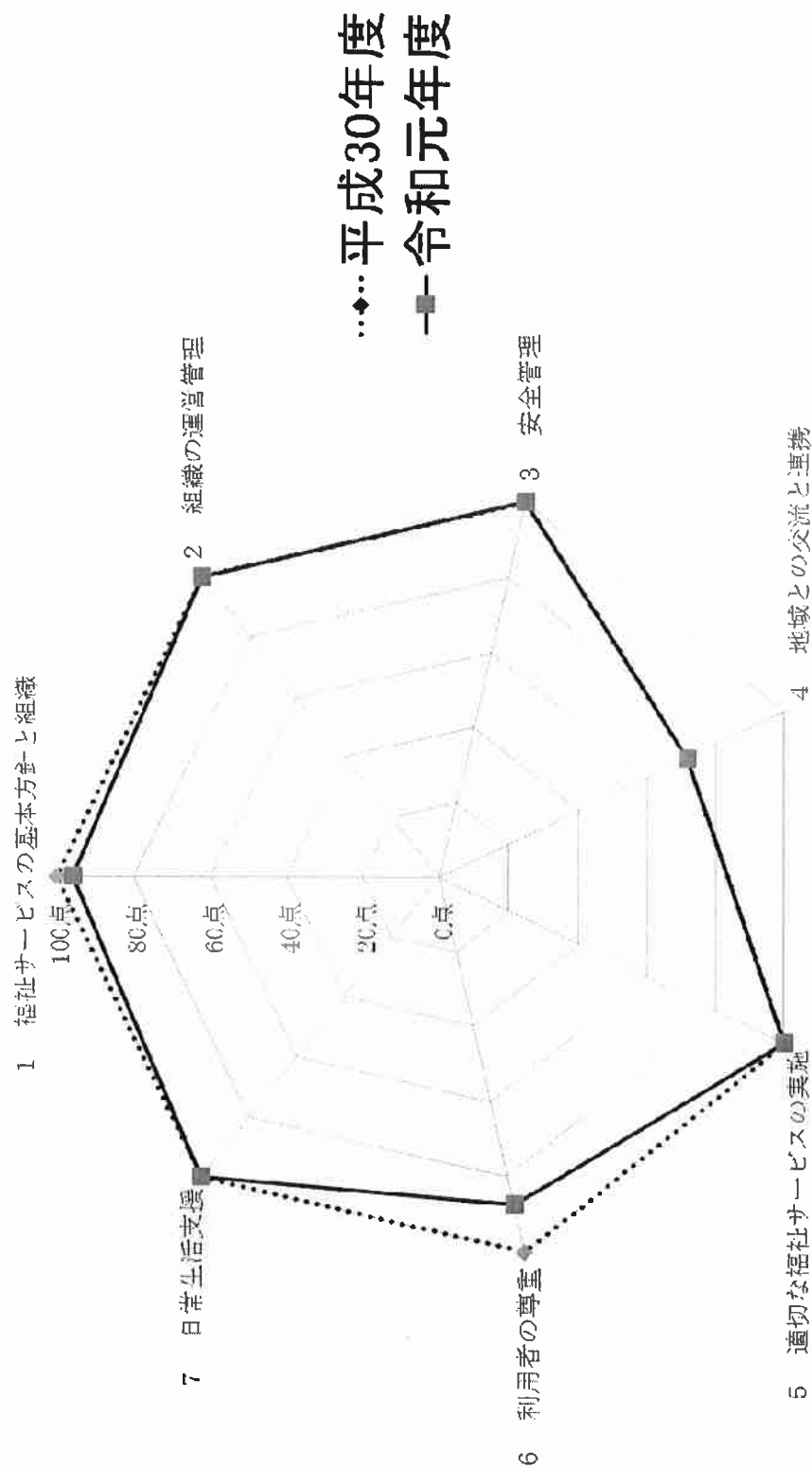
スタッフのスキルアップ向上を図るため、以下のとおり外部研修を受講しました。

研修内容	実施年月日	場所	人数
高知県身体障害者児施設協会総会	平成 31 年 4 月 19 日	高知市	1 名
高知県福祉施設士会総会	令和元年 6 月 26 日	高知市	1 名
第 41 回全国福祉施設士セミナー	7 月 4, 5 日	福岡市	1 名
高知県障害者虐待防止権利擁護研修	8 月 27 日	高知市	1 名
令和元年度苦情解決セミナー	9 月 9 日	高知市	1 名
令和元年度高知県食品表示セミナー	9 月 13 日	高知市	1 名
家族からのヘビークレーム対応策研修会	9 月 20 日	高知市	2 名
軽減税率セミナー	9 月 24 日	南国市	1 名
日本福祉施設士会中国四国ブロック ブロックセミナー	10 月 3, 4 日	高松市	3 名
中国四国社会就労センター協議会 施設長研修会	10 月 17, 18 日	高知市	1 名
事業継続計画（BCP）訓練講座	10 月 18 日	高知市	1 名
岡山県被災地視察研修	10 月 23 日	倉敷市	1 名
第 49 回中国・四国社会就労センター協議会 職員研修会	11 月 28, 29 日	松山市	2 名
南国市就労支援事業所意見交換会	11 月 29 日	南国市	1 名
自閉症の人たちの防災を考える～突然の災害を乗り越えるために～	令和 2 年 1 月 19 日	高知市	2 名

研修内容	実施年月日	場所	人数
令和元年度高知県身体障害者施設協議会（作業部会）社会就労センター協議会合同職員研修会	1月24, 25日	高知市	3名
令和元年度高知県サービス管理者更新研修	2月6日	高知市	1名
社会福祉法人公益的な取組推進フォーラム	2月18日	高知市	1名
令和2年度社会福祉施設総合保険制度説明会	2月20日	高知市	2名
断裁機安全講習会	2月29日	高知市	1名

- (6) 助成金の申請により、清水基金様より¥1,900,000、共同募金会様より¥1,500,000の助成金の支給が決定し、それぞれ10人乗りの送迎車両と屋根の修繕をするように令和2年度の事業として計画しております。

評価細目の自己評価結果 (ウィール社)



就労継続支援 B 型ワークセンター ファースト

1 事業の総括

土佐厚生会の会是を遵守し、こくふゾーンのスローガンである「思いやる気持ちでつなぐ心の和」を胸に刻み、障がいのある方が地域で自立した生活を送ることができるよう社会生活支援と就労継続支援を実施し、利用者様に寄り添った支援を行いました。

2 事業報告

事業計画(1)

利用者様一人ひとりの人格を尊重し、自己選択、自己判断、自己決定を保障し、個別支援計画に基づいた社会生活支援と就労継続支援を行います。

毎月行う職員会にて個別支援会議を実施し、定期的にモニタリングの実施と個別支援計画を立案し、全スタッフに周知徹底しました。新規契約の利用者様については2週間以内に計画を立て、支援を実施しました。

事業計画(2)

利用者様の確保をすすめ、利用契約者 12 名、稼働率 90%以上を目標とします。

ア 利用者様の確保をすすめ、3 名の方が利用契約されましたが、3 名の方が退所されました（内 1 名は 1 月に再度契約）。退所理由は、自己都合 1 名、自宅療養 1 名でした。

イ 目標の利用契約者 12 名、稼働率 90%以上は未達成でした。

月別の実績は以下のとおりです。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和元年	利用契約者数	10	10	10	11	11	11	9	9	9	10	10	10	10.0
	開所日数	21	22	21	22	19	21	22	21	21	21	20	22	21.1
	出勤のべ人数	167	177	158	155	147	158	165	155	154	175	162	169	161.8
	1日平均	8.0	8.0	7.5	7.0	7.7	7.5	7.5	7.4	7.3	8.3	8.1	7.7	7.7
	稼働率	79.5%	80.5%	75.2%	70.5%	77.4%	75.2%	75.0%	73.8%	73.3%	83.3%	81.0%	76.8%	76.8%
30年度	利用契約者数	11	10	10	10	10	10	10	11	11	11	10	10	10.3
	1日平均	8.2	8.0	7.7	8.2	8.2	8.5	7.6	8.6	9.1	7.4	8.4	8.0	8.1
	稼働率	82.4%	79.5%	77.1%	82.1%	82.0%	84.7%	75.9%	85.7%	91.0%	73.8%	84.2%	79.5%	81.4%

事業計画(3)

地域行事に参加して、地域との交流機会を増やします。また、販売活動も行い、収益向上に努めます。

参加行事は以下のとおりです。また、豊穰祭や大豊町文化祭では、仕入れた新高梨やカトレアの商品、自社商品のポチ袋等を販売しました。

令和元年 10月13日	豊穰祭
11月3日	大豊町町民文化祭
12月4日	あったかハートふれあい大会
令和2年2月12日	大豊町元気はつらつ運動

事業計画(4)

ファーストの仲間づくりと社会生活力増進に努めます。

ファーストの仲間とも交流を深め、また見聞を広げるために以下の行事を行いました。3月に花見の予定をしておりましたが、新型コロナウイルスの影響で中止としました。

- ア 令和元年 4月5日 春の外出 高知城歴史博物館
- 9月24日 秋の外出 日本食研工場見学
- 12月25日 クリスマス忘年会
- イ 外出行事の無い月には、本山町のしゃくなげカフェへランチに出かけました。

事業計画(5)

町村が受給者証を発行し、作業能力のある65歳以上の方の受け入れを推進していきます。
町村から受給者証を発行された対象者はいませんでした。

事業計画(6)

嶺北地区の事業所(りんどう、どんぐり)と作業等を行い交流していきます。

共同作業の実績は以下のとおりです。

- 令和元年 5月 土佐町町営住宅の庭清掃(3か所)
- 6月 土佐町町民プール清掃
- 9月 トキワ園中庭清掃
- 10月 土佐町農家芋ほり(4回)
- 11月 本山町、土佐町たばこ組合清掃

事業計画(7)

就労支援活動では顧客の増加と収益の向上に努め、黒字化と工賃アップを図ります。
就労支援活動年間売上¥1,610,000、利用者工賃目標¥9,800

- ア ミニパック：衛生用品の袋詰め
- イ 菊水酒造：酒類の化粧箱シール貼り、掛け紙折り等
- ウ 大豊町碁石茶協同組合：碁石茶の選別、袋詰め等
- エ 松田医薬品：入浴剤の封入、糊付け
- オ ショッピングセンター末広：贈答用箱折、包装資材カット等
- カ 印刷：ウィール社と連携し、嶺北地区からの印刷受注窓口、配達
- キ 地域イベント：碁石茶製品、果物(新高梨等)の販売
- ク 嶺北3事業所(りんどう、どんぐり)で合同作業：芋ほり、プール清掃等
- ケ 農工センター清掃：2、3階会議室、ホール、トイレの清掃作業

就労支援事業の実績は以下のとおりです。

	作業名	平成30年度	令和元年度	目標
印刷受注窓口	—	¥433,099	¥758,303	¥410,000
受託作業	—	¥1,199,013	¥1,778,006	¥1,200,000
内訳	ミニパック	276,439	219,081	(150,000)
	菊水酒造	406,633	321,256	(250,000)
	碁石茶組合	129,296	314,510	(250,000)
	松田医薬品	170,487	268,976	(230,000)
	末広	21,582	26,264	(20,000)
	南国ミロク	—	990	—
	嶺北就労部会	28,000		—
	農工センター	—	240,000	(240,000)
	その他	166,576	181,510	(60,000)
合計金額		¥1,632,112	¥2,536,309	¥1,610,000
平均工賃		¥9,749	¥13,399	¥9,800

ア 新規作業として、ポケットティッシュの袋詰め、ウエスの裁断作業を始めましたが、ポケットティッシュの袋詰め作業は取引先の都合により、10月で終了しました。

イ 利用者様の平均工賃は、期末手当を支給しましたので、前年度より 37.4%アップの¥13,399 となりました。

3 その他

(1) 防災避難訓練

実施日	実施内容	参加者
令和元年 10 月 9 日	火災、凶上訓練、発電機操作確認	利用者様 9 名 スタッフ 4 名
12 月 11 日	地震、凶上訓練	利用者様 9 名 スタッフ 4 名
令和 2 年 3 月 3 日	火災避難訓練	利用者様 7 名 スタッフ 4 名

(2) 苦情受付件数 0 件

(3) スタッフの配置状況

ア 所長 1 名 (兼務)

イ サービス管理責任者 1 名

ウ 嘱託職業指導員 2 名 (内 1 名生活支援員を兼務)

エ 送迎運転手 1 名 (本部スタッフ兼務)

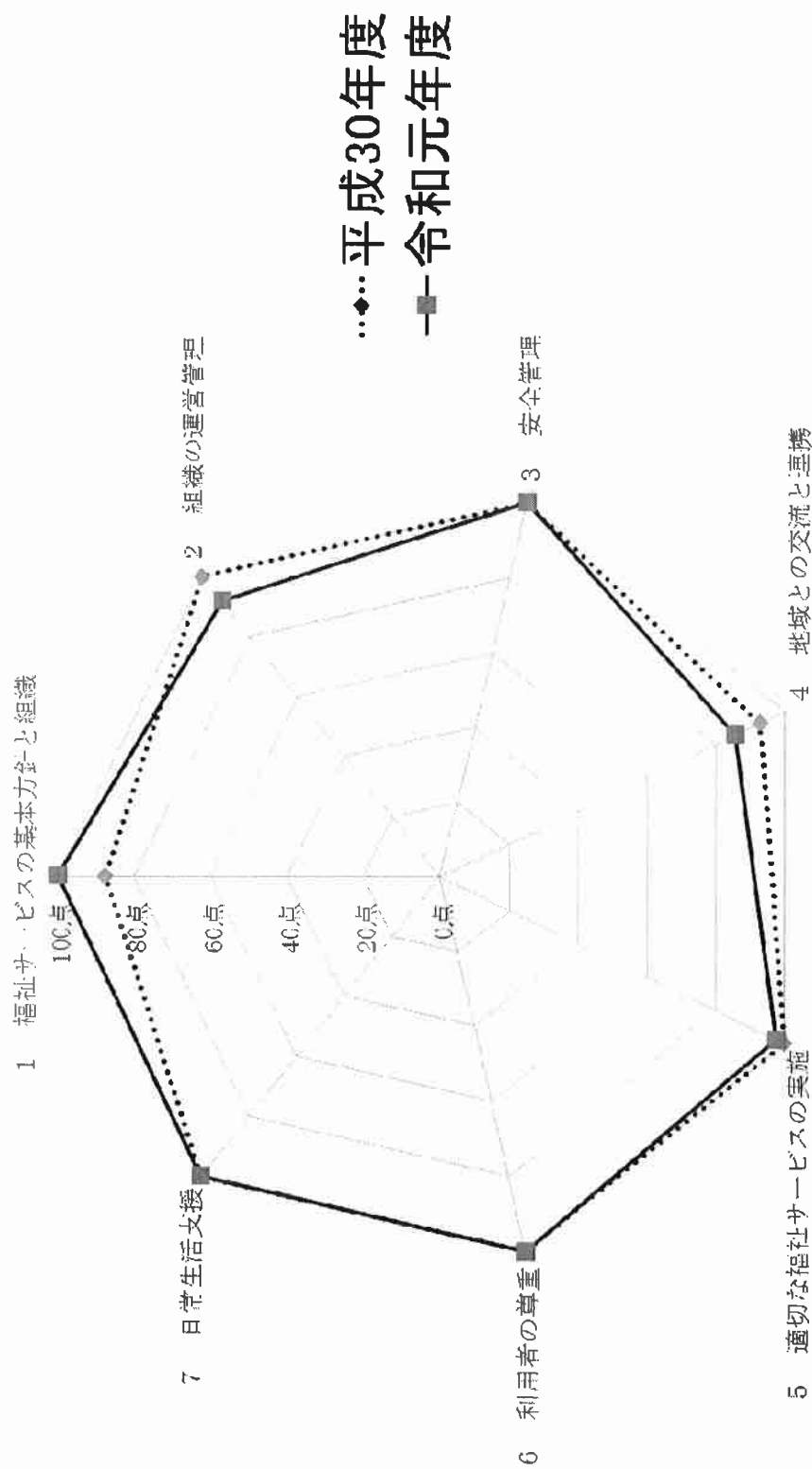
産休取得(現在育休)スタッフの補充として2月より1名の嘱託職業指導員を採用しました。

(4) 研修

研修内容	実施年月日	場所	参加者
高知県障害者虐待防止権利擁護研修	令和元年 8 月 27 日	高知市	1 名
令和元年度苦情解決セミナー	9 月 9 日	高知市	1 名
令和元年度高知県身体障害者施設協議会 (作業部会) 社会就労センター協議会合同 職員研修会	令和 2 年 1 月 24 日	高知市	1 名

(5) 就労支援事業会計の黒字が大幅に出たため、総額¥369,000 を利用者様の勤務時間等を算定し、期末手当として一時金を支給しました。

評価細目の自己評価結果 (ファースト)



障害者支援施設 あき

1 事業の総括

「みんなでつなごう、次のステージへ」のスローガンのもと、経営の安定とサービスの質の向上に努めました。利用者数は増加しましたが、夜勤加算を取得できなくなり、収入減となりました。利用者様の支援においては部署間の連絡、連携体制が不十分な場面があり、課題となりました。移転に向けては、利用者様、家族様、スタッフで進捗状況の情報共有を図りながら、準備を進めていきました。

2 事業報告

事業計画(1) 稼働率 90%以上を目指します。

- ア 養護学校、地域の就労支援事業所との関係づくりを行い、施設見学につなげる。
- イ 知的・精神障害に関する研修会等で支援方法を学び、幅広い受け入れができるようにする。
- ウ 生活介護、ショートステイの希望者を受け入れ、地域の在宅者のニーズに応えていく。

施設入所 86.39%、生活介護 88.93%と、稼働率目標値 90%には到達しませんでした。利用者在籍数は、5名の退所に対して7名の新規入所があり、前年度 44名から2名増の 46名となりました。

- ア 新規利用者数増加に向けて養護学校や就労支援事業所へ見学し、関係づくりを行う等の取り組みは特に行いませんでした。相談支援事業所をはじめとする関係機関からの問い合わせが継続的であったため、関係機関担当者と施設相談員が連絡、調整を行いながら新規利用者様の受け入れを行いました。
- イ 自閉症、行動障害等援助度の高い利用者支援を基本とする他の障害者支援施設の研修へ3回、のべ6名のスタッフが参加し、強度行動障害の背景と捉え方について学びました。知的障害のある利用者様への支援において困難な事案が発生した際には、家族様、行政、相談支援事業所を交えての会を持ち、情報共有、将来的な方向性の認識統一を図りました。
- ウ 新たに生活介護のみの利用を希望された方はいませんでした。長期にわたり定期的にショートステイを利用されていた方1名が入所となりました。

事業計画(2) 施設体制の整備を行い、サービスの質の向上を目指します。

- ア 緊急通院時の施設対応は全スタッフが統一した認識で行い、利用者様、家族様、関係機関にとって安心感の持てる協力体制を取っていく。
- イ 労務管理により提供サービスの見直しを行い、内部活動の充実を図る。

報告、連絡、相談、確認の徹底ができていなかったことに起因するインシデント、苦情が目立ちました。再発防止対策の実施や施設運営委員からの助言をもとに、施設体制の見直しや改善に努めました。

- ア 緊急通院時は、できるだけスタッフが付き添い、利用者様の情報を直接病院に伝えるようにしました。利用者様入院中のインフォームドコンセントやカンファレンスへも病院から要請があれば出席し、退院後のスムーズなサービス提供に向けて協力体制を作りました。

イ 日中活動については、内容、回数に大きな変更はありませんでした。相談員を中心に施設外出を計画、実施し、希望者には2回の外出を行いました。また、第20回高知県障害者作品展へ参加し、利用者様が共同制作した絵画作品を出展しました。

事業計画(3) 人財育成を組織的・継続的に行い、労働環境を改善してスタッフの定着に努めます。

ア ステップアップシートにて個々の課題を明らかにし、課題解決に向けて育成する。

イ キャリアパスを意識できる育成に努め、スタッフのモチベーションアップ、資質向上を目指す。

ウ ノーリフトケアを推進し、利用者様、スタッフへの身体的負担を予防する。

施設内・外部研修や個別指導を通して人財育成に努めました。福祉用具導入の検討や日々の動作確認、見直しを行い、労働環境の改善を図りました。年間の入・退職者数は、退職者4名、入職者5名でした。

ア 個別の面接により、各自の課題と目標を明らかにし、施設内・外部研修、個別指導を行いました。目標への意識、スキル、課題によって個々人の達成度に差が見られました。

イ 高知家統一セミナー、全国、中・四国身体障害者施設協議会主催研修会、笑いヨガリーダー養成コースへ参加し、学んできた内容を日々の業務、支援、日中活動で実践しました。改善提案は目標件数130件に対して170件の提出がありました。

ウ 移乗サポートロボット、床走行リフトの試用・検討や、高さ調節機能付き電動ベッド2台の購入等、福祉機器の導入を積極的に行い、ノーリフティングケアを推進しました。また天井走行リフトを有効活用するための利用者様の居室替えや、スタッフ間で危険予知トレーニングを実施し、利用者様、スタッフへの身体的軽減に努めました。

事業計画(4) リスク管理・防災対策を強化します。

ア ヒヤリハット、インシデント、事故、苦情への歯止め・実施継続のため、PDCAサイクルを機能させ、リスク管理に努める。

イ 防災マニュアル、訓練方法の見直し・変更を行い、有事の際に備える。

ヒヤリハット、インシデント、事故、苦情に対するリスク管理を徹底させることができず次年度への課題として残りました。リスク管理、防災対策の一環として、関係機関との連絡・連携、協力を努めました。

ア ヒヤリハット38件、インシデント69件、事故12件、苦情5件がありました。部署間での連絡、連携が不十分、確認が不十分等、PDCAサイクルが十分に機能していなかったことによる事案、体制の不備に起因する事案が多くありました。

イ 総合的な防災訓練と避難訓練については、防災機器操作訓練・消火訓練1回、地震時夜間想定避難訓練2回、風水害時夜間想定避難訓練1回、火災時夜間想定避難訓練2回、夜間通報訓練1回実施しました。また11月10日には、行政、地域の方々が参加して、巨大地震を想定した福祉避難所開設・運営訓練を実施し、発災から24時間後の動きの確認や、災害時使用の物品のデモンストレーションを行いました。

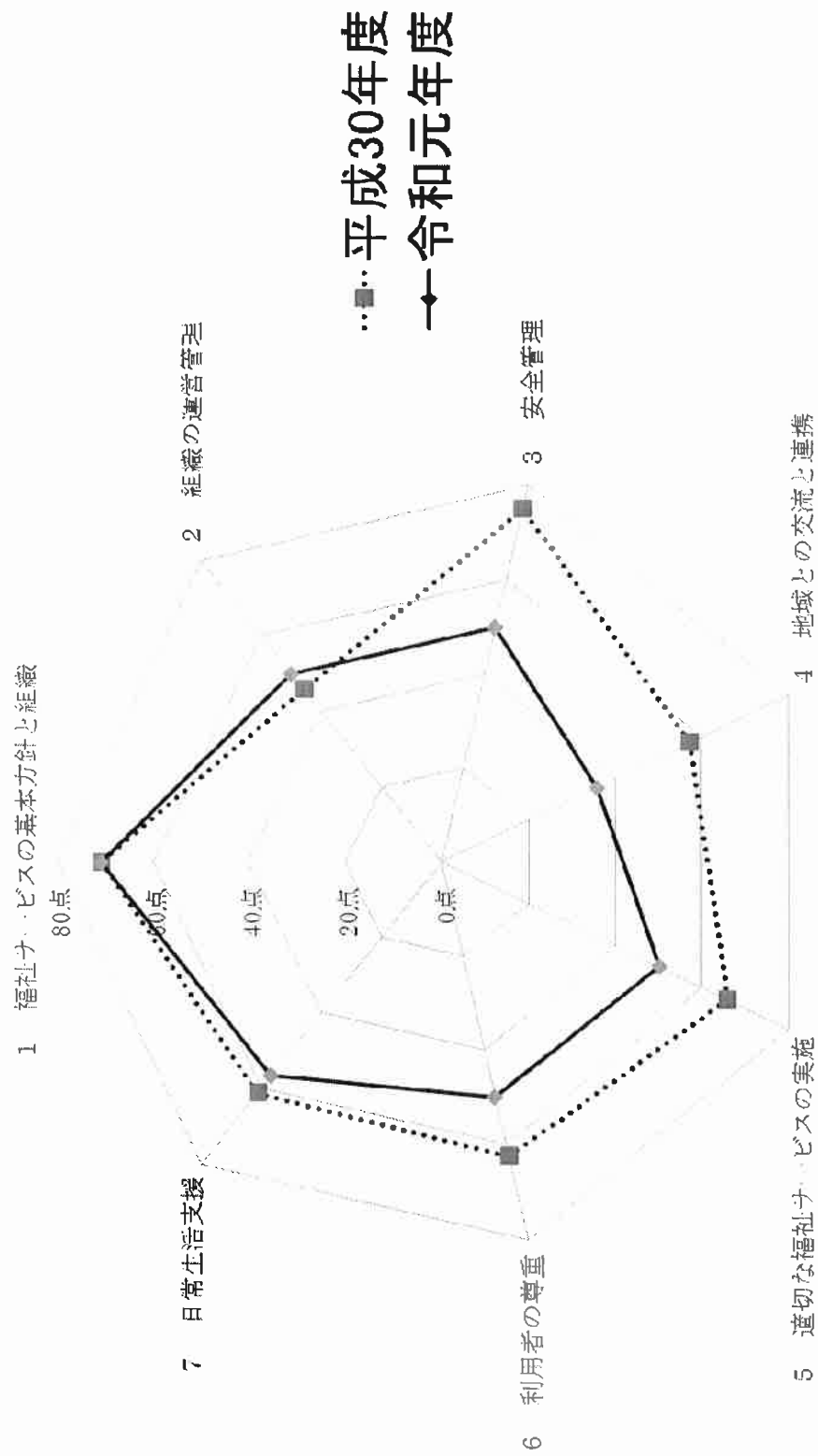
事業計画(5) 移転先にて、50名満床状態でのスムーズな事業開始に向け、準備を進めます。

- ア 利用者様、地域のニーズや希望から新しい事業内容を検討、決定し、実施に向けての準備を行う。
- イ 行政、地域との関わりを密に取り、開始に向けて協力体制を整える。
- ウ 必要物品、設備について仕分け・購入の検討、書類等の整理・廃棄を計画的に実施する。

新施設の設計に当たっては、設計士、業者との話し合いを重ね、間取り、仕様、機器等を決定していきました。利用者様、家族様、関係機関へも移転についてお知らせしました。

- ア 新施設での新しい活動内容や日中活動については、十分な話し合いはできませんでした。次年度事業計画への継続となりました。
- イ 移転、新施設での事業開始に向けての本格的な協力体制づくりは未実施でした。次年度事業計画への継続となりました。
- ウ 設備、機器についてはスタッフが県内外の施設、工場に出向き、情報収集、話し合いをして決定しました。不用品、書類の整理、廃棄については少しずつ行っていました。利用者様の私物の整理はほとんど進みませんでした。

評価細目の自己評価結果 (障害者支援施設あき)



短期入所事業所 あき

1 事業の総括

当事業所は、障害者支援施設あきに併設されたもので、事業は障害者支援施設あきに準じて実施しました。

2 事業報告

- (1) 短期入所利用者様に対する日常生活の支援は、障害者支援施設あき利用者様への支援に準じて実施しました。
- (2) 安全で安心して生活できるように、事業所設備の維持管理と環境の保持に努めました。具体的内容は次のとおりでした。
 - ア 基本的な日常生活の支援を行いました。
 - イ 自立生活を促進するために必要な支援と相談を行いました。
 - ウ できる限り在宅生活に準じた支援に努めました。
 - エ 適切な医療ケアと食事の提供を行い健康保持に努めました。
- (3) 稼働率は30.7%にとどまり、前年度の66.6%から大きく低下しました。

特別養護老人ホーム 八流荘

(介護老人福祉施設)

(短期入所生活介護)

1 事業の総括

施設長の交代に伴い、第4四半期よりスローガンを掲げ、令和2年度からの新たな取り組みに向けた準備を進めるべく、全スタッフで協議のもと早急な業務改善に取り組みました。「克己力を以て調和をはかり、傾聴力を以て支援にあたる。」～ 八流荘 スローガン（私情に打ち勝ち、互いの和合につとめるとともに、他者の言葉を耳で聞くのではなく心で受けとめる）

2月には、新型コロナウイルスの感染が、徐々に全国的に広がり始め、3月に入ると、本会の各事業所も面会制限へと動き出しました。八流荘におきましては、重症化のリスクが高い高齢者が利用される介護施設であることから、関係者も対応に大変苦慮しているところです。毎日のように面会にお越しいただいていた家族様も、大変寂しい思いをされておりますが、感染経路を絶つためには、外部との接触をできる限り減らす以外はありません。衛生用品等の不足も深刻ではありますが、一人ひとりが節約をしながら耐え忍び、スタッフとのコミュニケーションは欠かさずことなく一丸となって感染対策に取り組みました。

2 事業報告

平成31年度の事業計画には、ICTの導入を掲げ、業務の効率化と事務量の軽減を図るべく、

- (1) 文書量の減少、帳票類の簡素化、時間外労働の改善を目的に実用化を図ります。
- (2) 医療・介護の連携の充実に向けたサービス事業者のネットワーク構築に向け、ICTによる医療介護情報共有の動きにも対応していきます。

と掲げられておりました。施設長にとりまして、積極的な人財育成とIT資源への投資に対する重要性を理解しながらも一方で、IT人財の育成は、世代間ギャップもあり、具体的な取り組みが非常に難しい分野でもあります。人財を増やし、育てようとしても、短時間でできるものではありません。資質を持つスタッフを育成対象者として選任し、OJTを通じた計画的な育成が必要となるでしょう。アナログ世代にも応じた個人別育成計画を立案するなど、成長状況に応じたモニタリング、そして何よりも関係者に対する十分なコンセンサスを図ることが肝要となります。

福祉の仕事とは、相手に関心を持ち、相手の立場に立って考えることから始まります。このことを他者意識といいます。相手の立場に立つということは、相手の真意をくみ取ることであり、ひいては我々支援者自身の学びと気づきにも至ります。自らの経験を通じて心の引出しを増やし、様々な場面々々でどう判断し、どう対応するのか。支援者たる我々事業者は個々に求められる感性と想像力を磨くべく、ときには行動を修正しながら克己心を養います。克己心とは、苦しいことに耐え自分を磨くことであり、自制心とも言います。スタッフ間とのベクトルを合わせることで、プロの対人援助職として調和をはかります。そして支援に対する功績と責任は、チーム全体で分かちあえるという喜びがあります。

まずは、時間をかけて教育し、チームを引っ張っていく。そのためには、若い人たちだけでなく、全世代間のスタッフに対して適切にコンセンサスを図り、八流荘関係者が一丸となるべく、ベクトルを合わせる必要があります。ICTの導入につきましては、令和2年度の事業計画下半期への継続事業としていきます。

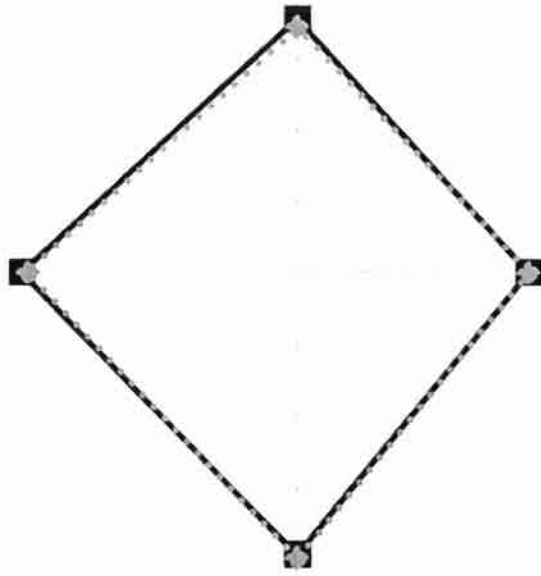
介護サービス自己評価実施(八流荘)

1 提供体制 76%

4 運営管理 76%

2 事業管理 69%

3 サービス内容 63%



■ 令和元年度

◆ 平成30年度

デイサービスセンター やながれ

1 事業の総括

小規模の家庭的雰囲気の中でサービスを利用される利用者様の尊厳を大切に、個々の希望、環境や心身の状況等に応じたサービスを提供することにより、住み慣れた地域で自立した生活ができるように支援を行いました。しかし、近年の人財不足の中、スタッフの退職に伴う人員の補充をすることができず、事業所を継続していくことが困難となりました。

2 事業報告

事業計画(1)

法人の理念と経営方針をふまえ、責任と使命を果たす組織づくりを継続し、スタッフ一人ひとりに高い倫理観と規範意識を促してコンプライアンスの推進に努めます。

会是である「愛情」「奉仕」「連帯」に沿ったサービスの提供に努めました。

事業計画(2)

利用者様に対する人権の尊重とプライバシーの保護に努めるとともに各種研修等により業務スキルを向上させ、安心感のあるサービス提供に努めます。

事業所内研修に加え安芸市主催の研修に参加し、安心感のあるサービス提供に努めました。

ア 外部研修

- (ア) 栄養士・介護職員デイサービス合同研修会
- (イ) 認知症介護基礎研修

イ 事業所内研修

- (ア) 接遇マナーについて
- (イ) 認知症の方への対応
- (ウ) 高齢者の人権・虐待
- (エ) 感染症予防
- (オ) リスクマネジメント

事業計画(3)

自己決定、自己選択ができる環境でその人らしく、安全で安心して楽しく生き生きと自立生活ができるよう支援に努めます。

自己選択活動プログラムの実施には至りませんでした。利用者様個々に役割を持っていただき主体的活動の一つとなりました。

事業計画(4)

加齢に伴う心身の機能低下を防止するように努めるとともに、健康で心豊かな日常生活を送ることができるように支援します。

ア 機能訓練、脳トレ等を実施することで機能低下の防止に努めました。脳トレについては認知症検査の結果、「改善があった又は機能維持の報告があり今後に期待している。」と医師や家族様から評価をいただきました。

イ 機能訓練は準備不足により加算算定には至りませんでした。

事業計画(5)

高齢者の方々の社会的役割を促すとともに社会的、文化的活動に参加できるサービス提供に努めます。

利用者様が自宅でしていることを事業所でもできる環境を整え、社会的役割を持っていただくよう支援に努めました。

事業計画(6)

地域との連携を深め、地域密着型事業所としての役割を果たすように努めます。

地域の方々との交流会や地域のイベントへの参加を通して地域の方々との関係性を深めるよう努めました。

ア 赤野保育園児との交流会

イ 穴内小学生との交流会

ウ かもめサロンとの交流会

エ 地域住民の方たちとの「笑いヨガ」教室

3 その他事業報告

(1) 月別稼働率 (%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率	56.9	63.3	58.7	57.2	58.3	61.5	61.5	65.3	59.3	53.6	55.4	46.8

(2) 事故、苦情

通院を伴う事故はありませんでした。

ア インシデント

(ア) 座り込み・転倒 6件

(イ) 誤薬 1件

(ウ) 剥離 2件

(エ) 荷物の間違い(返却抜き含む) 5件

(オ) 請求事務処理 1件

イ 苦情(1件)

トイレが詰まって使用できないことが度々あるとの苦情があり、原因は多量のペーパーを流すことと思われ、スタッフが再度ペーパーを流すことで改善しました。

(3) スタッフの状況

6月に介護スタッフ1名の退職がありました。人材派遣会社からパート介護員の派遣を受け、その後、直接雇用に切り替えました。12月に経験の長い介護スタッフから退職の申し出があり、それに続き3名の退職の申し出がありましたが、その補充ができませんでした。

(4) 事業所の今後について

八流荘建て替えに伴い行政機関などからの情報収集を行い、通所事業から他の介護保険事業運営への移行も含め今後の方向性を検討していく予定でした。しかし、退職者4名の補充が間に合わず、事業の継続が困難となりました。

ホームヘルプステーション やながれ

1 事業の総括

利用者様の尊厳を大切に、個々の希望、環境や心身の状況等に応じたサービスを提供することにより、自宅で自立した生活ができるように支援を行いました。また、可能な限り社会活動に参加できるよう支援を行いました。

2 事業報告

事業計画(1)

法人の理念と経営方針をふまえ、責任と使命を果たす組織づくりを継続し、スタッフ一人ひとりに高い倫理観と規範意識を促してコンプライアンスの推進に努めます。

会是である「愛情」「奉仕」「連帯」に沿ったサービスの提供に努めました。

事業計画(2)

利用者様に対する人権の尊重とプライバシーの保護に努めるとともに各種研修等により業務スキルを向上させ、安心感のあるサービス提供に努めます。

事業所内研修を行い、安心感のあるサービス提供に努めましたが、外部研修については人員や訪問時間との調整がつかないため参加できませんでした。

ア 事業所内研修

- (ア) 接遇マナーについて
- (イ) 認知症の方への対応
- (ウ) 感染症予防
- (エ) リスクマネジメント

事業計画(3)

利用者様の意向を尊重し、その人らしく、安全で安心して楽しく生き生きと自立生活ができるよう支援に努めます。

概ね月2回の業務カンファレンスを行い、利用者様の情報共有、業務手順の確認と標準化を行うことで安心感のあるサービス提供に努めました。

事業計画(4)

高齢者の方々の社会的役割を促すとともに社会的、文化的活動に参加できるサービス提供に努めます。

利用者様ができることに着目し、できないことは可能な限り一緒に行うことで自立心の向上に努めました。

3 その他事業報告

(1) スタッフ数

ア 所長兼管理者	1名
イ サービス提供責任者(正職員)	1名
ウ 常勤ヘルパー(嘱託職員)	1名
エ 登録ヘルパー	3名

(2) 月別稼働率(%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率	82.5	87.5	85	80	80	87.5	90	85	82.5	92.5	97.5	92.5

在宅介護支援センター やながれ

1 事業の総括

法人の理念を基本として、利用者様それぞれの置かれている環境や心身の状況に応じてサービスを受けることができるように関係機関との情報共有や調整を行い、尊厳をもって在宅生活を送るよう支援をしました。また、地域の方たちに高齢者への理解と協力を働きかけることで高齢者が住み慣れた地域で生活を継続できるように支援しました。

2 事業報告

事業計画(1)

東部地域の介護保険情勢を把握し、法人内事業所との協働による事業所経営の安定を図ります。

ア 法人内事業所への情報提供、利用者紹介を積極的に行いました。

イ 主任ケアマネは介護支援専門員連絡協議会の理事として介護支援専門員の会議、研修会等を企画、開催して介護保険情勢を常に把握するよう努めました。

事業計画(2)

地域行事への参加、地域住民や民生委員との交流を通じ地域高齢者のニーズを把握し、介護保険制度や社会資源を活用して可能な限り住み慣れた地域で生活できるように努めます。

地域の行事に参加して地域住民との交流を通じて情報収集するとともに地域の高齢者の方々から理解が得られるよう努めました。

ア 5月・9月 民生委員の地区会

イ 8月 赤野地区有志が発起人の住民の交流会「赤野ピアホール」に屋台を出店

ウ 9月 地域の敬老会

エ 11月 安芸福祉祭り

事業計画(3)

独居又は高齢夫婦世帯や低所得高齢者、医療的ケアの大きい高齢者など様々な困難ケースに対し地域住民や医療行政機関との情報交換を密にして地域福祉に貢献します。

高齢者のニーズに合わせて関係機関との調整を行い支援しました。

ア 地域ケア会議参加 4回（内事例提供 1件）

イ 困難ケースについて行政への相談回数 4件

ウ 福祉事務所、包括支援センター、家族様との話し合い 1回

事業計画(4)

医療介護のネットワーク構築のシステムについて、情報収集を行いネットワークへの参加の検討や情報共有のシステムづくりを進めていきます。

在宅医療、介護連携推進事業プロジェクト会議参加し、ネットワークづくりに努めました。利用者様を支える医療機関、行政、サービス事業所等が互いに情報を密にするため「高知@ケアライン」、「ささえあいノート」の活用を行い、情報共有のシステムづくりを行いました。

- ア 在宅医療、介護連携プロジェクト会議参加
- イ ネットワークグループづくり
 - (ア) 高知家@ケアライン 2ケース
 - (イ) ささえあいノート活用 7ケース

3 その他事業報告

(1) 利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率	56.9	63.3	58.7	57.2	58.3	61.5	61.5	65.3	59.3	53.6	55.4	46.8

令和2年度より、事業所は管理者兼主任ケアマネ1名の配置となるため、新規利用者様の受け入れを控えました。

(2) 会議、研修会

- ア 介護支援専門員連絡協議会理事会 日本介護支援専門員連絡協議会全国大会
- イ ケアマネ定例会
- ウ 事例検討会（参加6回 内事例提供1ケース）
- エ 高知@ケアラインモデル事業説明会、報告会
- オ あき圏域医療機関、介護支援専門員等による意見交換会
- カ 主任介護支援専門員スキルアップ研修
- キ 安芸市介護支援専門員資質向上研修
- ク 県介護支援専門員研修
- ケ ふくし総合フェア

小規模多機能型居宅介護事業所 南風

1 事業の総括

地域で75歳以上の後期高齢者数は2025年にピークを迎え、その後も認知症高齢者、高齢の単身世帯や夫婦のみ世帯、家族様の介護について協力が得られない方等、介護を必要とする高齢者が増加していくと考えられます。「その人がその人らしく笑顔で過ごせる安心した居場所づくり」のスローガンのもと、介護が必要になっても家族様や親しい人たちと共に、住み慣れた地域で安心、安全な生活が送れるように支援することに努めました。

2 事業報告

事業計画(1)

地域連携と地域の資源を活用し、利用者様のこれまでの生活スタイルを維持できるように努めます。(介護)

民生委員総会に出席し、民生委員との連携が図れるようにしました。今年度は、地域ごとの月例会への出席はできなかつたため、次年度は計画的に取り組んでまいります。南風で実施した行事にお招きしたり、地域主催の行事にも参加し、地域の方々や地域の民生委員との交流ができました。

事業計画(2)

日々の健康管理と異常の早期発見に努め、受診につなげます。脱水や感染症等について、利用者様、家族様にその時々に応じたアドバイスを行います。(看護)

ア バイタル測定や持病の服薬、投薬管理等を行い、健康管理に努めました。

イ 南風新聞に看護師が担当するコーナーを作り(脱水や感染症に関するお知らせ等)、利用者様、家族様に注意喚起を行いました。

事業計画(3)

利用者様の目標を明確にしたケアプラン作成に努めます。公的な研修に積極的に参加し最新の情報と研修内容について事業所内で情報の共有を行い、スキルアップを図ります。(介護支援専門員)

行政主催のケアマネ研修には概ね毎回出席できました。今年度は、認知症実践者研修を受講したスタッフの課題ケースについてスタッフ全員が取り組み、利用開始以来入浴を強く拒む利用者様(認知自立度Ⅲa)が、入浴が毎回できるようになる等、大きな成果が出せた経験をもとに、利用者担当スタッフが課題をあげ、スタッフ全員で取り組む体制をつくりました。

事業計画(4)

稼働率アップと加算取得により、経営基盤の安定を図ります。(管理)

31年度の目標値登録定員23人(稼働率92%)に対し、稼働実績は登録定員平均21.1人(稼働率84.3%)でした。後期につきましては、泊まり利用を開始したことで利用相談件数

も増え 92%を維持しました。住み慣れた地域での在宅生活が継続できるようにするためには、利用者様、そして介護している家族様を支えることが必要です。これまでの水木、土日の泊りを昨年度は木～日の4日間、今年度 10 月からは毎日泊りサービスが提供できるようにスタッフ体制を整え、実施に踏み切りました。関係機関への広報活動についても、南風新聞を定期的（1回/2か月）に発行し、どのようなサービスを提供できる事業所であるか、南風新聞を見て下さる人に、よりわかりやすさを重視し、土佐弁での表現を取り入れました。年間の利用者様の状況は以下のとおりです。

ア 利用実績報告

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
登録者数	20	20	20	18	18	18	19	23	25	24	24	24	平均 21.1
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	合計 366
稼働率	80%	80%	80%	72%	72%	72%	76%	92%	100%	96%	96%	96%	84.3%

イ 月間サービス利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通い	314	329	312	298	292	307	326	385	424	435	413	429	4,264
宿泊	61	71	67	62	70	59	88	108	109	106	109	125	1,035
訪問	201	212	202	206	203	202	236	231	240	255	251	275	2,715

ウ 年齢別、介護度別利用状況

	介護度 1	介護度 2	介護度 3	介護度 4	介護度 5	支援 1・2	合計
70～74 歳	1						1
75～79 歳	1				1		2
80～84 歳	2		2	3	2	1	10
85～89 歳	3	2	1		1		7
90～94 歳	3	5		1			9
合計	10	7	3	4	4	1	29

エ 行事实施状況

実施年月日	行事名	実施場所	参加人数
平成 31 年 4 月 5 日	お花見	安芸ドーム公園	利用者様 12 名 スタッフ 9 名
4 月 16～18 日 23 日	つつじ見学	内原野公園	利用者様 9 名 スタッフ 6 名
4 月 21 日	東部ふれあい歌謡祭見学	安芸市民会館	利用者様 3 名 スタッフ 2 名
令和元年 5 月 9、14、17、22 日	外食、買い物外出	安芸市内	利用者様 12 名 スタッフ 11 名
5 月 27 日	いきいき百歳体操交流会	安芸市総合福祉センター	利用者様 2 名 スタッフ 2 名

実施年月日	行事名	実施場所	参加人数
6月11～13, 19日	あじさい見学	香南市、安芸市	利用者様11名 スタッフ6名
7月7日	七夕	南風ホール	利用者様8名 スタッフ6名
7月26日	おやつ作り	南風ホール	利用者様1名 スタッフ5名
8月4日	安芸市花火大会見学	南風駐車場	利用者様3名 スタッフ2名 ボランティア2名
8月17日	縁日	南風ホール	利用者様14名 スタッフ1名 ボランティア1名
8月25日	安芸市民音楽祭	安芸市民会館	利用者様2人 スタッフ2人
8月27日	商い甲子園見学と買い物	安芸市本町通り	利用者様10名 スタッフ8名
9月18日	長寿を祝う会	南風ホール	利用者様13名 スタッフ14名 家族様1名 ボランティア4名
10月24日	ハロウィンパレード	雨天の為中止(菓子のみ)	利用者様0名 スタッフ1名
10月27日	福祉ふれあいバザー	総合福祉センター	利用者様10名 スタッフ8名
10月31日	本町ハロウィンパーティー	満子の部屋	利用者様8名 スタッフ3名
11月1日	浜弁当	元気館前庭	利用者様16名 スタッフ12名 地域・法人内22名
12月20日	クリスマス会	南風ホール	利用者様15名 スタッフ7名
令和2年1月1日	お正月	南風ホール	利用者様6名 スタッフ4名
1月7日	新年祝賀会	南風ホール	利用者様21名 スタッフ12名 地域1名
2月2日	節分	南風ホール たんぼぼ保育所	利用者様15名 スタッフ5名 地域5名
3月3日	ひなまつり(四季膳)	南風ホール	利用者様13名 スタッフ8名
中止	土佐の町屋ひなまつり ひなまつりパレード	※南風階段にひな人 形展示は実施した	—

誕生会 4、7、9、10、11、12、1、3月(誕生月に実施)

障害者支援施設 とさ

1 事業の総括

関係法令を遵守し、土佐厚生会の会是を基本理念として、利用者様の人権の尊重と自己決定、自己選択の保障及びその自立に向けた支援に努め、利用者様が安心・安全な生活と社会参加ができる支援をしました。

また、「地域の福祉拠点」をスローガンとして、近隣小学校運動会への参加や交流会、施設主催の祭りや防災訓練に参加いただく事で、地域との係わりを深め、地域の福祉相談に答えると共に災害時の避難所の整備に努めました。

2 事業報告

事業計画(1) 職員満足向上のため、定年まで働きたい職場にします。

目標：職員定着率 95%以上

ア 人事考課面接と身上調書面接により、帰属意識向上を図ります。

イ 職場内研修と OJT により、スキル向上と部署間連携向上を図ります。

ウ 気軽に相談できる体制を整え、スタッフのストレス軽減を図ります。

入職者 8 名に対し、退職者 12 名。定着率 80.3%と目標を大きく下回り、平成 30 年度の医療・福祉の平均離職率 15.5%と比較しても定着率が低いです。スタッフ退職に伴う補充が遅く、一人当たりの仕事量増加による退職連鎖が主な原因です。

ア 年 2 回の人事考課面接と年 1 回の身上調書面接によってスタッフ個々の現在困っている事や将来像を確認、施設として期待している点や直してほしい点を伝え、帰属意識の向上を図りました。

イ スタッフ不足のため職場内研修を行う事ができませんでしたが、人員不足により主任が現場応援に入ること、例年より密に OJT が実施できました。

ウ 上司や先輩同僚が普段と様子の違うスタッフがいたら極力声掛けを行い、スタッフのストレス軽減を図りました。

事業計画(2) 利用者満足向上のため、充実したサービス提供を行います。

目標：稼働率 98%以上

ア 個別支援計画により、個別ニーズの支援を充実します。

イ 充実した給食環境を整えます。

ウ 全スタッフ月 1 件以上の改善提案を目指します。

年間稼働率は、施設入所支援 95.6%、生活介護 90.8%(入所 94.5%・通所 72.0%)、短期入所 87.2%となり、各サービスとも目標に届きませんでした。施設入所は利用者様の急な体調不良による入院が多かった事が主な原因です。生活介護は入所利用者様の入院が多かった事、通所利用者様は複数の施設を利用することによる利用回数の減少と引っ越しや重症化による利用終了が主な原因です。短期入所は個室がなく、希望される方の性別によって利用できない現状においては高稼働でした。

- ア 利用者様個々に個別支援計画を立て、年2回の見直しを行うことで可能な限り個別ニーズの支援を行いました。
- イ 前管理栄養士が急な退職をしたため、引継ぎのない現在の管理栄養士の努力にて、8月に給食環境を整えました。以降は、利用者様が選択しやすいような選択食の聴き取りの模索など環境向上に努めました。
- ウ 改善提案は年間で224件(ヒヤリハット65件・提案45件・改善114件)と前年度に比べ12件減となりましたが改善数は多く、気づく力を養い、職場環境や支援内容の改善につながりました。

事業計画(3) 経営満足向上のため、利用単価と稼働率の向上による増収を図ります。

目標：事業活動収支差額の収入比率10%以上

- ア 生活介護サービスの通所者の利用回数を増やします。
- イ 入所定員5%枠を活用して入所在籍者51名を目指します。
- ウ 光熱水費や事務費の節約を行い冗長な支出をなくします。

年間の事業活動収支差額の収入比率は9%と目標に届きませんでした。

- ア 社会参加の視点から複数の事業所を利用する通所利用者様が多く、利用回数増加につながる日中活動やサービスの提供に至らなかったこともあり、利用回数を増やすことはできませんでした。
- イ 利用者様自治会の自主解散により、自治会専用の部屋を入所定員5%枠用の専用部屋にと考えました。しかし、部屋の位置や間取りが悪く、利用者様より面会や自習に使いたいとの要望もあり専用部屋の用意はできませんでした。そのため51名の在籍に努めましたが、常時51名在籍には至りませんでした。
- ウ 光熱水費の節約に努め、ガソリン代の支払い方法の変更等により経費を削減した事によって、昨年度より光熱水費は減少しました。

事業計画(4) 地域貢献のため、福祉避難所整備と各関係機関との連携を深めます。

目標：平成30年度より地域との関わりを増進する。

- ア マニュアル作成と訓練にて、福祉避難所の円滑な運営を検討します。
- イ 高岡高等学校との交流を深め、地域交流の増進を図ります。
- ウ 近隣社会福祉法人と連携して、公益的な取り組みの実施を目指します。

当施設の防災訓練に地域の方が参加、当施設の祭りへの高校生参加など、平成30年度より地域との関わりが増進しました。

- ア 土佐市防災センターのスタッフの意見を参考にして、福祉避難所のマニュアルを完成しました。福祉避難所運営の訓練は、コロナウィルス感染症の情報収集・対策検討・対策実施のため、行えませんでした。
- イ 高岡高等学校に祭りの協力を要請、生徒2名の参加がありました。
- ウ 介護スタッフ不足による本来サービスの低下を最小限にするため、他部署がフォローに入ったため、公益的な取り組みの実施には至りませんでした。

3 その他事業報告

(1) 月別稼働率の状況

ア 稼働率（単位：％）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
施設 入所	96.8	96.4	96.3	98.8	96.6	96.0	99.0	97.5	94.4	92.6	90.8	92.1	95.6
生活 介護	92.3	90.5	91.1	92.8	91.2	91.6	94.2	92.5	90.2	88.1	87.1	87.5	90.8
内 所 入 所 通 所	(95.2)	(94.5)	(96.5)	(97.0)	(95.7)	(94.8)	(97.9)	(96.2)	(93.3)	(91.9)	(89.8)	(91.2)	(94.5)
	(77.7)	(70.4)	(64.1)	(71.7)	(68.7)	(75.5)	(75.7)	(74.1)	(74.8)	(69.1)	(73.8)	(68.7)	(72.0)
短期 入所	88.3	96.8	106.7	80.6	82.3	82.5	86.3	86.7	87.9	91.9	87.1	70.2	87.2

(2) 年間行事等

ア 施設の行事

(ア) 日中活動

種目	目標	実施内容
室内 娯楽	<ul style="list-style-type: none"> ・認知能力や感受性の向上 ・協調性を養う ・心身のリラックス 	<ul style="list-style-type: none"> ・卓球バレー・風船バレー ・かるた・オセロ・トランプ ・ボッチャ・もぐらたたき・DVD鑑賞
作業系	<ul style="list-style-type: none"> ・集団（社会）適応能力を高める ・手指の細かい動作能力を高める ・心身の耐久性を高める ・協調性、思考性、感受性を養う ・意思・意欲の向上 ・認知能力を高める ・生活のリズムを整える ・自立生活能力を高める 	<ul style="list-style-type: none"> ・調理材料買物 ・調理 コーヒーゼリー、アイスフルーチェ 冷凍苺シェイク、スイートポテト リンゴとバナナのギョーザパイ ココアパンプディング ・スピリットアート作り（鳴子） ・七夕飾り付け・クリスマス飾り ・正月飾り・ひな飾り・個人創作 ・燈籠作り、カレンダー作り
学習系	<ul style="list-style-type: none"> ・集団（社会）適応能力を高める ・手指の細かい動作能力を高める ・認知能力を高める ・協調性を養う ・思考性を養う ・感受性を向上させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・暑中見舞い・年賀状 ・書道・ぬり絵・カード合わせ ・新聞作り・折り紙・間違い探し ・なぞり書き・かるた ・個別学習・声の広報・地域学習 ・スピリットアート展の出展作品
音楽 療法系	<ul style="list-style-type: none"> ・スキンシップやリラックス ・仲間作りや雰囲気づくり ・発声訓練や身体の体操 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム音楽・カラオケ・音楽鑑賞

種目	目標	実施内容
園芸療法系	<ul style="list-style-type: none"> 手・指の操作性 身体の動き 観賞、食する喜び 	<ul style="list-style-type: none"> 作物(ピーマン、ミント、オクラ、ダイコン、さつまいも) 栽培(アサガオ、ヒヤシンス) 作物や畑の手入れ・新聞作り・押し花 収穫物の調理・看板作り・勉強会
外出	<ul style="list-style-type: none"> 気分転換 社会参加 	<ul style="list-style-type: none"> 買物・ドライブ・花見・パチンコ カフェレスト
生産活動	<ul style="list-style-type: none"> 社会参加 協調性や自活能力を高める 意思や意欲の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 手作りパン販売
機関紙編集	<ul style="list-style-type: none"> 思考力を養う 	<ul style="list-style-type: none"> 打ち合わせ、誌面づくり、校正送付準備など
美活	<ul style="list-style-type: none"> 清潔保持・心身のリラックス 意思・意欲の向上・気分転換 	<ul style="list-style-type: none"> スキンケア・ハンドケア・ネイルケア ヘアメイク・オーラルケア
美食	<ul style="list-style-type: none"> 気分転換 意思・意欲の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い・スイーツ等取り寄せ 会食

(イ) 年間行事

行事名	実施日	実施場所
花見弁当	4/3	とさホール
ふれあい交流会	6/1	とさホール
彼岸の法要	9/20	楓の間
涼風祭	10/19	施設敷地内
クリスマス忘年会	12/21	とさ施設内
節分豆まき	2/3	小ホール・デイホール
彼岸の法要	3/19	楓の間

(ウ) 生活利便のサービス

	内 容	対象
預金引出	火曜日に銀行員が来所、希望者の通帳処理を行いました。	入所
買物	水曜日に希望日用品を代行して購入しました。	入所
パンの販売	月2回程度、業者が来所してパンを販売しました。	入所・通所

イ 地域住民等との交流

行事名	月日	実施場所
波介小学校 入学式出席	4/8	波介小学校
土佐市から始まる MUSIC STEP ウクレレ	7/18	とさホール

行事名	月日	実施場所
波介小学校 運動会参加	9/30	波介小学校
涼風祭	10/19	施設敷地内
地域祭り（おなばれ）	10/20	施設沿道
土佐市から始まる MUSIC STEP コンサート	11/21	とさホール
高石小学校 交流会	11/28	とさ施設内
波介小学校 交流会	12/18	とさ施設内
クリスマス忘年会	12/21	とさホール
松尾貴臣様ライブ	1/30	とさホール

(3) 防災訓練及び避難訓練等の実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
避難誘導			6/26				10/30						2回
消火			6/26				10/30						2回
通報	4/8		6/26				10/30		12/17		2/3		5回
地震	4/8		6/26			9/2	10/30		12/17	1/29	2/3		7回
図上			6/26				10/30						2回
夜間避難			6/26						12/17				2回
救急法								11/27					1回
水害対応									12/17				1回
不審者対応		5/15											1回

(4) 施設への苦情等件数

受付先	施設内の問題	その他の問題	計
とさの苦情等の申出窓口	0	0	0
とさ地区施設運営委員会	0	0	0

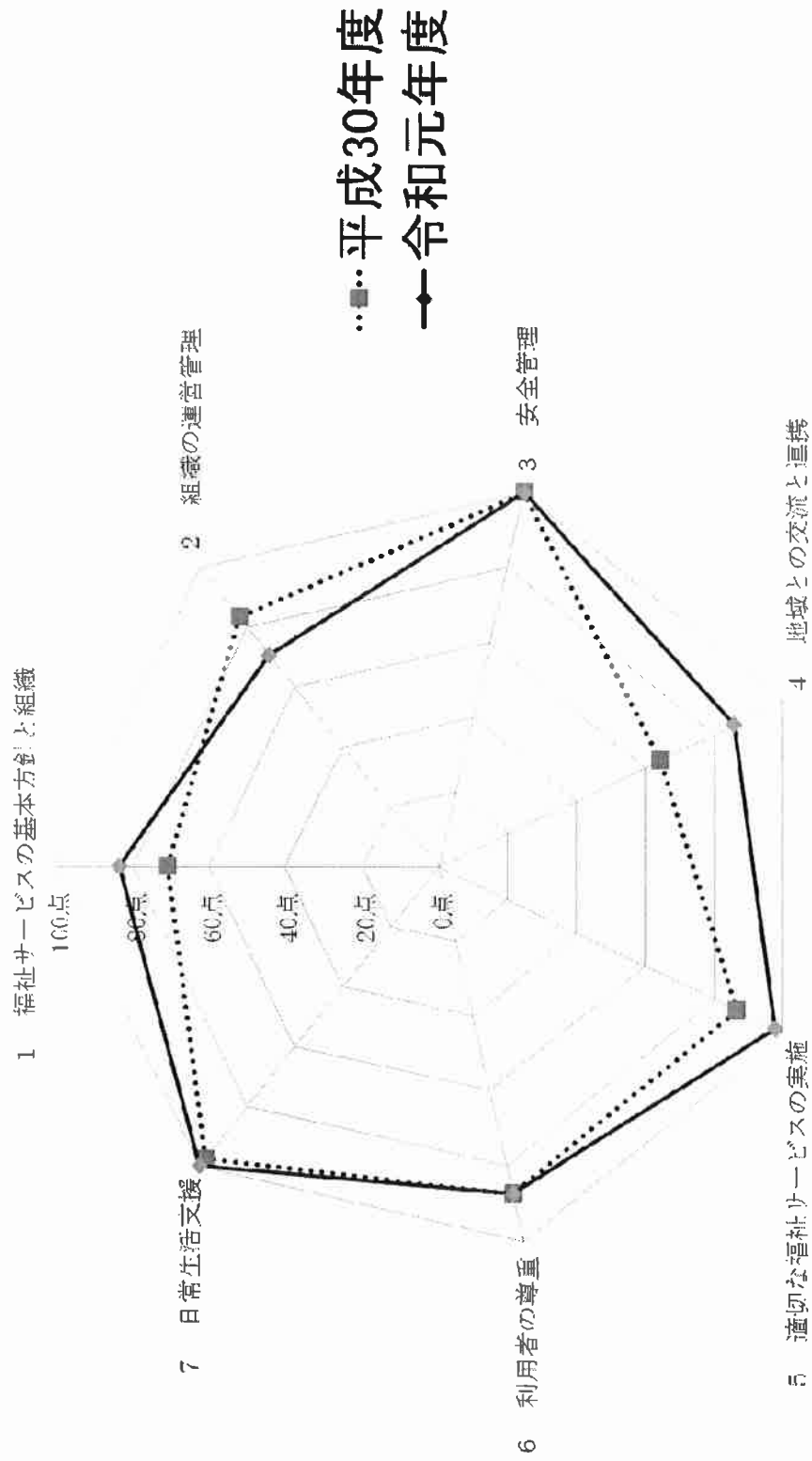
(5) スタッフの配置状況（令和2年3月31日現在）

職種	常勤 換算	常勤 (人)	非常勤 (人)	職種	常勤 換算	常勤 (人)	非常勤 (人)
施設長（管理者）	1	1	0	理学療法士	1	1	0
サービス管理責任者	1	1	0	管理栄養士	1	1	0
医師（嘱託医）	0	0	1	事務員	2	2	0
看護職員	3	3	0	用務員	1.2	1	1
生活支援員（介護）	32.1	30	9	夜間警備員	1	1	0
生活支援員（相談）	2	2	0	合計	45.3	43	11

(6) スタッフの施設外研修への参加状況

研修・セミナーの名称	開催期間	場所	参加者
中四身障協 施設長研修会	5/13～5/14 2/20～2/21	鳥取県 山口県	施設長
福祉施設士会 高知県研修会	6/26	高知市	施設長
福祉施設士会 全国大会	7/4～7/5	福岡県	施設長
経営協セミナー	8/6	高知市	施設長
感染症講習会	8/8	いの町	施設長
福祉サービス苦情解決セミナー	9/9	高知市	施設長
食と栄養の会	9/11 11/13	高知市	栄養士
レジオネラ菌対策研修	9/13	高知市	施設長
ヘビークレーマー対応研修	9/20	高知市	施設長
福祉施設士会 中四セミナー	10/3～10/4	香川県	施設長
県身体障害者(児)施設協会 生活部会	11/7	高知市	施設長・事務主任 相談員
腰痛予防対策講習会	11/22	高知市	介護員
ハラスメント対応研修	2/26	高知市	施設長

評価細目の自己評価結果 (障害者支援施設とさ)



就労継続支援 B 型事業所 カトレア

1 事業の総括

ノーマライゼーションの理念に基づき、利用者様が地域社会の一員として自立生活を送るための生活面の支援と、就労に必要な知識及び技能を高める就労継続支援をしました。会是の「愛情」「奉仕」「連帯」の精神を遵守し、『組織とスタッフの成長』をスローガンとして、土佐厚生会の経営理念を念頭に置き、スタッフ全員で成長できるように努めました。

2 事業報告

事業計画(1)

利用者様が地域社会の一員として自立生活を送るために生活面の支援と就労に必要な知識及び技能を高めると共に、施設的环境整備を整え、利用者様満足度を高める支援を行います。

スタッフ全員で気づきの心で支援を行い、改善提案を積極的に行いました。令和元年度の改善提案件数は 33 件で、年間の賞としては、金賞・すごいで賞を受賞しました。

事業計画(2)

利用者様ひとり一人の人格を尊重して、自己決定、自己選択を保障し、就労継続支援と社会生活支援を個別支援計画に基づき行います。

利用者様のニーズに応えられる支援計画を立案し、エンパワメントの視点で支援できる取り組みを進めました。支援のサイクルとして、観察、(記録)集約、分析、目標設定、手だて(5W2H)実践、評価で行い、定期的にモニタリングを行い確認しました。

事業計画(3)

就労支援活動年間売上 ¥20,000,000、利用者様工賃は前年度を上回る事と ¥19,000/月を目標とします。

ア 食品加工

新規販売先の開拓に努め、売上目標 ¥3,000,000 とします。

イ 乾燥工場

㈱サニーフーズとの安定した取引を行い、売上目標 ¥14,200,000 とします。

ウ 喫茶

一日平均売上定食数 20 食を目指し、売上目標 ¥2,800,000 とします。

就労支援活動の実績は以下のとおりでした。

作業部署	作業内容	30 年度売上	令和元年度売上	目 標
食品加工	粉末商品、いりこ請負	3,096,403	4,205,780	3,000,000
乾燥工場	乾燥生姜・野菜チップ 乾燥加工費	14,077,706	19,898,152	14,000,000
喫茶	喫茶、イベント	3,013,068	2,760,402	2,800,000
空調・清掃	とさ空調清掃、清掃業務	205,200	800,000	200,000
	合計金額	20,392,377	27,664,334	20,000,000
	平均工賃	18,407	18,736	19,000

事業計画(4)

利用契約者を 28 名（定員 20 名）確保し、稼働率 120%を継続します。

月別利用状況実績は以下のとおりでした。又、カトレア機関紙「スマイル」を発行し、カトレアの日常をPRしました。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用契約者数	27	27	27	27	27	27	27	26	25	25	25	25	26
開所日数	21	22	21	23	20	20	22	21	21	20	19	22	252
出勤のべ人数	504	524	486	535	444	461	498	442	444	407	409	443	5,597
1日平均	24.0	23.8	23.1	23.3	22.2	23.1	22.6	21.0	21.1	20.4	21.5	20.1	22.21
稼働率(%)	120.0	119.1	115.7	116.3	111.0	115.3	113.2	105.2	105.7	101.8	107.6	100.7	111.1

事業計画(5)

日帰り旅行や行事を行い、第3土曜日を通所日とし余暇活動を行い、利用者様の社会参加に努めます。

障害者支援施設とさと一体となり、とさゾーンとして充実した内容を備えた地域福祉サービスの提供を行いました。行事等については以下のとおりでした。

ア 年間実施行事・地域交流

実施年月日	内 容	実施場所
令和元年6月2日	障害者スポーツ大会・陸上	春野運動公園
7月6日	日高特別支援学校・夏祭り	日高特別支援学校
7月13日	こくふ村祭り	支援施設こくふ
7月14日	ふくし総合フェア	ちばさんセンター
9月4日	障害者雇用優良事業所表彰式	県庁
10月14日	高知バリアフリー専門職大学祭	高知バリアフリーリング
10月19日	とさゾーン涼風祭	とさ・カトレア
11月8日	日帰り旅行	ホビー館・かっぱ館
12月21日	クリスマス・忘年会	カトレア
令和元年5月～年(5回)	土佐市から始まるミュージックステップ	とさ・くすのき園

イ 苦情解決について

カトレア等に関する苦情や相談に対して、迅速かつ適切に対応するために「とさ地区施設運営委員会」を設置して、意見箱を設け、苦情などの受付の他、毎月1回、利用者懇談会を開催し意見交換などを行いました。苦情相談の投函はありませんでした。

事業計画(6)

スタッフ研修を実施し、土佐厚生会のスタッフとしての資質の向上と育成に努めます。

ア 内部研修は、法人内部研修計画に従い研修に参加しました。

イ 外部研修・学習会の参加状況は以下のとおりでした。

研修・セミナーの名称	開催期間	場所	参加者
高知県身体障害者（児）施設協会総会	4/19	高知市	1
食品表示研修基礎コース（全3回）	5/20、6/17 8/22	高知市	1
みてわかる支援と環境作り講座	5/31	高知市	2
高知大学教育学部附属特別支援学校・学校参観	6/13	高知市	2
食品衛生講習会	6/25	高知市	1
全国福祉施設士セミナー	7/4～7/5	福岡県	1
HACCP推進者研修	7/2	高知市	1
CVPPPについて（暴力行為への理解と実際の取り組み）	8/24	高知市	1
介護リスクマネジメントセミナー	9/20	高知市	1
中国・四国ブロック福祉施設士セミナー	10/3～10/4	香川県	1
中国・四国社会就労センター協議会施設長研修会	10/17～10/18	高知市	1
刈払機取扱作業安全衛生教育	10/21	高知市	1
発達障害に関するセミナー	10/28	高知市	2
高知県身体障害者（児）施設協会生活部会	11/7	高知市	1
HACCP技術検討会	1/17	東京都	1
高知県身体障害者（児）施設協会作業部会・高知県社会就労センター協議会合同職員研修会	1/24～1/25	高知市	2
サービス管理責任者更新研修	2/6	高知市	1

ウ スタッフ配置

() 内は、兼務スタッフ

職種名	所長	管理責任者 サービス	生活支援員	職業指導員	運転手	合計
職員配置数	1 (1)	1 (1)	1	6	2	10

エ 防災訓練は以下のとおりでした。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	回数計
避難誘導訓練			6/26				10/30						2
消化訓練			6/26				10/30						2
通報訓練									12/17				1
風水害訓練			6/26				10/30						2
地震訓練						9/11	10/30						2
図上訓練			6/26			9/11	10/30						3
救急法								11/27					1

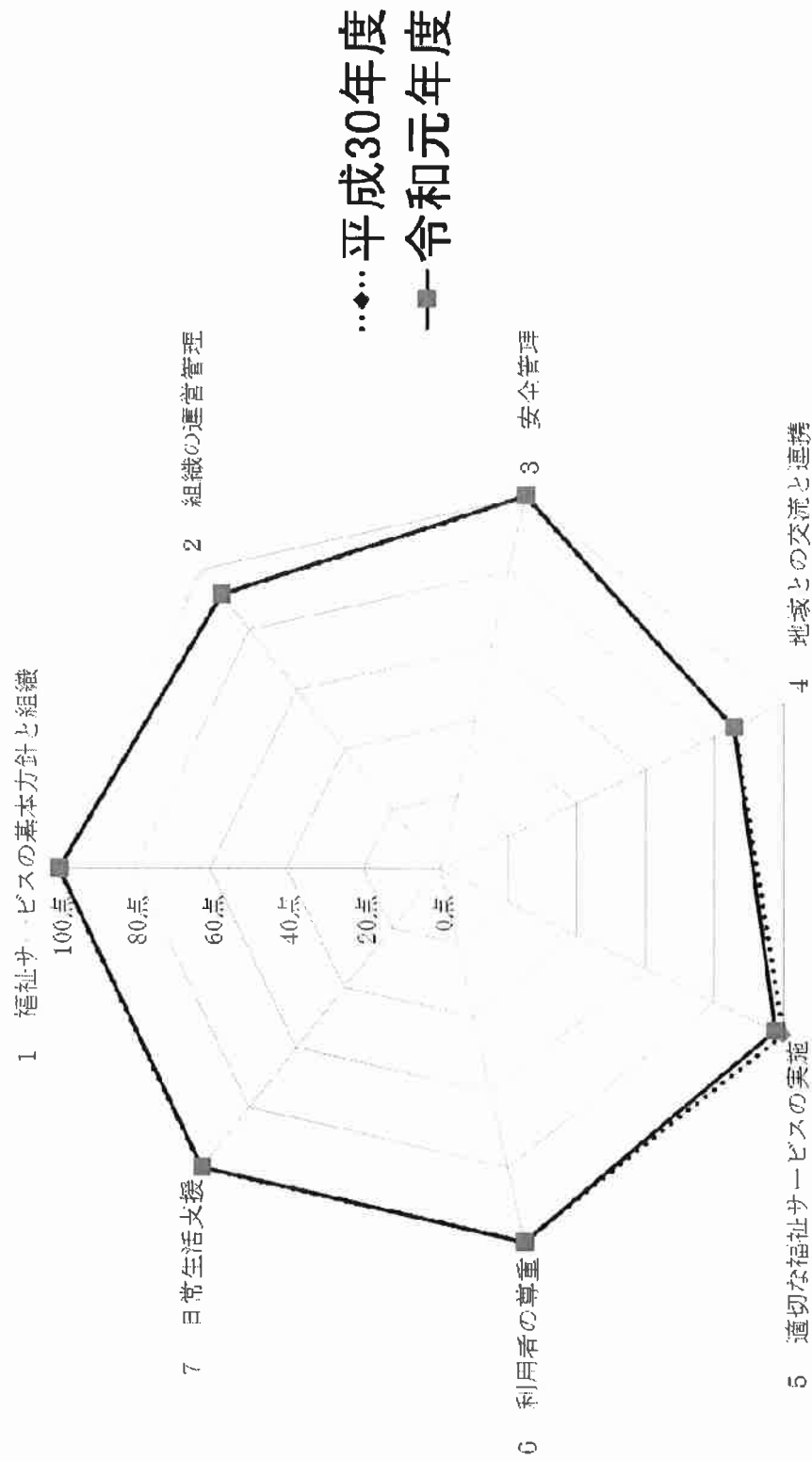
事業計画(7)

特別支援学校の現場実習を積極的に受け入れ、学校との連携を深めていきます。

実習生の受け入れは以下のとおりでした。令和2年3月から、特別支援学校卒業生が1名新規利用契約をする事となりました。

実習生受入期間	学校名	学年	人数
5月13日～5月24日	高知県立日高特別支援学校	高3	2名
6月11日～6月21日	高知県立日高特別支援学校	高2	1名
8月20日～8月22日	高知県立日高特別支援学校	高3	1名
10月7日～10月18日	高知県立日高特別支援学校	高3	1名

評価細目の自己評価結果 (カトレア)



障害者福祉ホーム コーポラスこくふ

1 事業の総括

こくふゾーンのスローガンである「思いやる気持ちでつなぐ心の和」を胸に刻み、利用者様が地域社会の一員として主体的に生活できるよう、プライバシーを確保し、社会生活力の増進に向けた支援をウィール社と連携し行いました。

2 事業報告

事業計画(1)

利用者様一人ひとりが自己選択、自己判断、自己選択をし、自立生活を送れるよう支援します。

3カ月に1度の利用者懇談会を開催し、利用者様のニーズや思いを把握し、買物時間や場所の変更、エアコンの設置等、様々なニーズにその都度対応しました。

事業計画(2)

利用者様のニーズや課題を把握し、安心安全に自立生活を送ることができるよう個別に支援します。

- ア 金銭管理
- イ 健康管理
- ウ 服薬管理

- ア 金銭管理 お小遣い帳を定期的にチェックし、無駄な支出等が無いようアドバイスを送りました。また、自身でATMの利用ができるよう同行支援を行いました。
- イ 健康管理 検温や血圧測定を行い、通院の支援も行いました。
- ウ 服薬管理 お薬カレンダーへの仕分けや服用確認の声掛けを実施しました。

事業計画(3)

利用者様の社会参加を推進し、趣味や余暇活動の範囲を広げられるよう支援します。

- ア 9月14日 入居者同士の交流を深めるためにバーベキュー大会を開催しました。(利用者様7名、スタッフ6名参加)
- イ 1月26日 南国市社会福祉法人公益的取組連合会主催の地域食堂(開催場所 土佐清風園)に利用者様3名が参加しました。

事業計画(4)

入居者10名の確保に努めます。

- ア 入居者10名を目指し、一時は満室にすることはできましたが、2月以降は満室にすることができませんでした。
- イ 年間稼働率は93.3%でした。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入居者数	9	9	9	9	9	9	10 (7)	10	10	10	9 (1)	9	9.3
増減							+1				-1		±0
稼働率	90%	90%	90%	90%	90%	90%	100%	100%	100%	100%	90%	90%	93.3%

- (7) ウィール社の利用者様が自宅より入居
- (1) 長期入院後、養護老人ホームへ転居

事業計画(5)

週に1度の買物支援を行います。

毎週1度、南国市内のスーパーマーケットにウィール社スタッフの対応にて買物支援を行いました。また、消費税増税後のプレミアム商品券にも希望者には手続きや使用の支援を実施しました。

事業計画(6)

こくふゾーンの防災計画に沿って、火災・地震・水害に備えた訓練を実施します。

ウィール社や障害者支援施設こくふと連携し、下記の日程にて防災訓練を実施しました。

実施日	訓練内容	参加者
令和元年5月29日	火災避難訓練	利用者9名、スタッフ7名
6月27日	水害、地震避難訓練	利用者6名、スタッフ6名
10月30日	地震避難訓練	利用者9名、スタッフ8名
令和2年2月26日	水害、地震避難訓練	利用者6名、スタッフ7名
3月30日	火災避難訓練	利用者6名、スタッフ3名

事業計画(7)

施設周辺の草刈りや花壇づくりを行います。

年間2回、左右山川沿い堤防の草刈りと施設前の花壇に草花を植えて楽しみました。

事業計画(8)

施設設備の修繕や環境整備を行います。

ア 各居室トイレにウォシュレットを設置します。(令和元年度は1階居室対象)

ア 1階居室トイレにウォシュレットを設置する予定にしておりましたが、新型コロナウイルスの影響で部品供給がなく、令和2年度以降に延期しました。

3 その他

(1) 事故報告

入院中の利用者様が医療センターから下司病院へ転院の際、失踪し約2週間行方不明となるケースがあり、その後、搜索依頼をしていた高知市内のサウナ店に現れたところを保護しました。

(2) 苦情受付 0件

(3) スタッフの配置状況

- ア 管理者 1名(兼務)
- イ 管理人 1名
- ウ 宿直者 1名(こくふ夜警兼務)

管理人の週に1度の休みには、こくふの夜警者に兼務してもらい、宿直をしてもらっています。

(4) 外部研修の受講はありませんでした。

公益を目的とする事業

1 医療保健事業

本会定款第38条に定める医療保健の事業の状況は、高齢者や障がい者が入所又は通所している以下の施設で医療や心身の状況に応じ、治療のみならず疾病の予防のための処置を実施しました。ただし、医師の退職等により後任の確保が困難であったため、年度途中から事業を休止しています。

その内容は以下のとおりです。

事業所名	設置場所	配置人員	指定診療所	開設年月日	休止年月日
安芸療護園 診療室	安芸市赤野甲 564 障害者支援施設あき内	常勤医師 1 人 看護師(兼)1 人	医療法 第 1 条の 5	昭和60年 7月29日	令和元年 11月1日
国府寮 診療所	南国市左右山 290-2 障害者支援施設こくふ内	嘱託医師 1 人 看護師(兼)1 人	〃	昭和63年 6月1日	令和2年 1月1日

2 その他の事業（公益を目的とする事業）

- (1) 居宅介護支援事業
- (2) 小規模作業所ファーモニー
- (3) 介護職員初任者研修
- (4) 墓地（合祀廟）の経営
- (5) 福祉モデル住宅の展示

